

独立行政法人国立高等専門学校機構  
呉工業高等専門学校

第2期中期目標期間  
(平成21年度～平成25年度)  
自己点検・評価報告書  
【第8報】

平成28年3月  
自己点検等管理委員会



## はじめに

第2期中期目標期間（平成21年度～平成25年度）が終了したことを受け、これまで行ってきた自己点検・評価をこのたびまとめ直し、ご報告させていただくこととなりました。報告書では、さまざまな項目に関し、まず目標期間中にめざすべき中期計画を立て、それを実現すべく年度ごとに計画を立て、それに対して行った活動内容を順次記述しています。

呉高専では、この自己点検・評価を長らく自己点検等管理委員会で行っていましたが、委員会名が示すように、どちらかという点検・評価そのものではなく、点検の管理にウエートが置かれていました。そこで、平成27年度に規則を改正し、本来の機能を果たすべく、平成28年度から、自己点検・評価委員会に衣替えすることを予定しています。

自己点検・評価を行う委員会が果たすべき本来の役割は、本校の学則第1条の2に定められていますように、本校の教育研究水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことにあります。したがって、今回の自己点検・評価においても、それを実現するにふさわしい中期計画であり年度計画を各項目について定める必要がありましたが、その点において、必ずしも適切な設定がなされていない項目も見受けられました。そのようなこともあり、今回の報告書では、各項目に関する活動内容はそれなりに記述されているのですが、それらを積み上げた結果、本校全体として、目的としている教育研究水準の向上が図れているかどうか評価し、判断を下すことは困難な状況にあると申せましょう。

すでに述べましたように、本報告書では、掲げられている各項目の活動状況に関しては概ね記述されていますものの、肝心の計画自体が必ずしも適切とはいえないため、その先の点検・評価及び改善するためのPDCAシステムに関してはほとんど記述されておらず、自己点検・評価報告書として十分なものとはいえない段階にあります。平成28年度から委員会が改められるこの機会に、その整備を図り、第3期中期目標期間の報告書においてはそれらを反映し、本校における教育・研究の質をいっそう向上させるよう、努めたいと思っています。

校長 森野 数博

**第2期中期目標期間（平成21年度～平成25年度）  
自己点検・評価報告書  
【第8報】**

**目 次**

はじめに

一 独立行政法人国立高等専門学校機構が達成すべき業務運営に関する目標 （独立行政法人通則法第29条）	2
二 呉工業高等専門学校 第2期中期目標期間 中期計画・年度計画・実施状況	
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成す るために取るべき措置	
1 教育に関する事項	7
(1) 入学者の確保	8
① 入学志願者増加に繋がる効果的な広報を実施するための全学的体 制を構築する。	
② 他教育機関等と連携して高専教育及び理工系分野の魅力を社会に 発信する。	
③ 編集学生受入れ方針を再検討する。	
④ 新たな入学者選抜方法を検討する。	
(2) 教育課程の編成等	19
① 中教審答申の趣旨及び高専機構の中期計画に呼応し、本科と専攻科 の新たな教育課程の編成等を検討する。	
② 「ものづくり」、教養教育及びPBLを重視した教育実践方法の改 善策を検討し、順次、実施する。	
③ 持続発展教育の観点を踏まえた新授業科目の導入や既存科目のシ ラバスの改善を行う。	
④ 外部資金による教育関連特別プロジェクトの成果を継承し、発展さ せる。	

(3) 優秀な教員の確保	26
① 教員人事において、教育力と人間力及び教育・社会貢献を支える研究力を評価するとともに、高専機構の定めた学位取得者比率基準に合致する状況を維持する。	
② 女性教員、外国人教員を積極的に採用する。	
③ 高専・技科大間の教員交流制度等を活用し、他機関勤務経験を通じた教員の能力向上策を推進する。	
④ 教育活動や生活指導などに関する教員表彰を行う。	
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム	33
① 教務主事・教育主任による明確な責任体制のもとで、教育改善PDC Aを着実に実施する。	
② 教員の研修経費を確保し、計画的にFDを実施する。	
③ 中・高校教員との相互教育研修を実施する。	
④ 教育センターにおけるICTを活用した新たな形態の教育を実施する。	
⑤ 協働研究センターの支援のもとで、COOPの実施を推進する。	
⑥ 退職技術者等を特命教員や教育協力員として採用し、多様な経験を持つ人材を教育に活用することにより教育内容を拡充する。	
⑦ 副校長(総務企画)のもとで、JABEE認定への取組を推進する。	
(5) 学生支援・生活支援等	46
① 課外活動支援策及び学生生活環境改善策を検討・実施する。	
② 低学年次生を重点として、規律ある行動習慣を身に付けさせる取組みを強化する。	
③ 入学から卒業まで一貫したキャリア支援教育体制を導入する。	
④ 学生相談室機能を強化する。	
(6) 教育環境の整備・活用	55
① 学生のアイデアを取り入れた、心地よい環境配慮型キャンパスの実現を志向する。	
② 教育改善計画に沿って、教育設備の拡充・整備を行う。	
③ 図書館棟を「教育センター」として、教育支援機能を充実する。	
④ 「総合教育技術室」を「技術センター」として再編し、ものづくり教育支援及び研究支援機能を強化する。	
⑤ 技術センター協力員等として、退職技術者等の企業人材を活用する。	
⑥ 新センター群及び新形態の教育を実践するため、建物の改修及び室機能の再配置を推進する。	

2	研究に関する事項	61
	① 副校長（総務企画）のもとで、科学研究費補助金獲得の支援を行うとともに、研究力強化に資する競争的資金公募事業へ計画的に応募する。	
	② 教員・学生に対する知的財産教育を推進する。	
	③ 研究成果を社会に積極的に発信する。	
3	社会との連携や国際交流に関する事項	71
	① 教員間及び大学・企業技術者との協働を促す。	
	② 公開講座、研究関連講演会及び他団体企画の本校教員担当公開講座等を計画的に推進する。	
	③ 「アガデミア」等を活用し、地域理科教育連携事業等を行う。	
	④ 同窓会及び後援会との連携を強化する。	
	⑤ 国際的な教育研究交流を活発化する。	
	⑥ 留学生受入れ拡大に関する方策を検討し、実施する。	
	⑦ 地域課題解決に資する活動を行う。	
4	管理運営に関する事項	85
	① 学校内の資源配分を戦略的かつ計画的に行う。	
	② 管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。	
	③ 事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流を活用し、事務職員及び技術職員の能力向上を図る。	
	④ 初任者及び転入者研修のためのe-教材等を整備し、本校の学校運営方針の踏まえた研修を実施する。	
II	業務の運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	
1	業務運営の効率化に関する事項	99
	① 業務の効率化・合理化を推進する。	
	② 一般管理費の縮減に努めるとともに、随意契約の見直しを行う。	
三	その他（参考）	107
	独立行政法人通則法（抄）	

## 第2期中期目標期間における中期計画・年度計画達成状況

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）は、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第29条（中期目標）、第30条（中期計画）、第31条（年度計画）に基づき達成すべき業務運営に関する各事項を定めることとされている。

また、呉工業高等専門学校（以下「呉高専」という。）においても、機構の定めた各事項に応じて達成すべき事項を定めることとされている。

今回、第2期中期目標期間（平成21年度～平成25年度）において定めた年度計画の項目を自己点検・評価項目とし達成状況等を報告するものである。

自己点検等管理委員会

# 1 独立行政法人国立高等専門学校機構が達成すべき業務運営に関する目標（独立行政法人通則法第 29 条）

## I 中期目標期間（第 1 号）

中期目標期間は、平成 21 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

## II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項（第 3 号）

### （1）教育に関する目標

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を通し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。

#### ① 入学者の確保

高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特性や魅力について、中学生や中学校教員、さらに広く社会における認識を高める広報活動を組織的に展開するとともに入試方法の見直しを行うことによって、十分な資質を持った入学者を確保する。

#### ② 教育課程の編成等

産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、各高等専門学校がそれぞれの地域性や特色、立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、学科構成を見直し、地域の要請に即応した新分野の学科の設置や改組・再編・整備を適切に進めるとともに、地域や各高等専門学校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う。

また、「中央教育審議会答申」（平成 20 年 12 月 24 日）の趣旨や入学志願者の動向、ニーズ等を踏まえ、高等専門学校の配置の在り方について地域の要望に即した見直しを行うものとし、宮城、富山、香川及び熊本の 4 地区にある高等専門学校の統合を着実に進める。

さらに、高等教育機関としての専門教育の充実や技術者として必要とされる英語力を伸ばさせることはもとより、高等学校段階における教育改革の動向も踏まえた「確かな学力」の向上を図るべく、各学校における教育課程の不断の改善を促すための体制作りを推進する。

このほか、全国的な競技会の実施への協力などを通して課外活動の振興を図るとともに、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動を始め、「豊かな人間性」の涵養を図るべく様々な体験活動の機会の充実に努める。

### ③ 優れた教員の確保

公募制などにより博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用するとともに、採用校以外の教育機関などにおいても勤務経験を積むことができるように多様な人事交流を積極的に図る。

また、ファカルティ・ディベロップメントなどの研修の組織的な実施や優秀な教員の表彰を始め、国内外の大学等で研究に専念する機会や国際学会に参加する機会を設けるなど、教員の教育力の継続的な向上に努める。

### ④ 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育研究の経験や能力を結集して国立高等専門学校の特性を踏まえた教育方法や教材などの開発を進めるとともに、学校の枠を越えた学生の交流活動を推進する。

また、各学校における教育方法の改善に関する取り組みを促進するため、特色ある効果的な取り組みの事例を蓄積し、全ての学校がこれらを共有することができる体制作りを進める。

さらに、学校教育法第123条において準用する同法第109条第1項に基づく自己点検・評価や同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価などを通じた教育の質の保証がなされるようにする。

実践的技術者を養成する上での学習の動機付けを強めるため、産業界等との連携体制の強化を支援するほか、技術科学大学を始めとする理工系の大学などとの有機的連携を深める。

全国に展開している教育資源を結集し高度な教育活動の展開に努める。

### ⑤ 学生支援・生活支援等

中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、修学上の支援に加え進路選択や心身の健康等の生活上の支援を充実させる。また、図書館の充実や寄宿舎の改修などの整備を計画的に進めるとともに、各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実する

### ⑥ 教育環境の整備・活用

施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図るとともに、産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育を行うため、耐震補強を含む施設改修、設備更新など安全で快適な教育環境の整備を計画的に進める。その際、身体に障害を有する者にも配慮する。

教職員・学生の健康・安全を確保するため各学校において実験・実習・実技に当たっての安全管理体制の整備を図っていくとともに、技術者倫理教育の一環として、社会の安全に責任を持つ技術者としての意識を高める教育の在り方について検討する。

## (2) 研究に関する目標

教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、各学校における研究活動を活性化させる方策を講じる。

国立高等専門学校を持つ知的資源を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取り組みを促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。

## (3) 社会との連携や国際交流に関する目標

地域共同テクノセンターなどの施設や設備の整備を計画的に進めるとともに、各学校における共同研究などの成功事例を広く公開する。また、地域の生涯学習機関として公開講座を充実させる方策を講じる。

安全面に十分な配慮をしつつ、教員や学生の国際交流への積極的な取り組みを推進する。また、留学生の受入れについては、「留学生30万人計画」の方針の下、留学生受入れ拠点を整備するなど、受入れの推進及び受入数の増大を図るとともに、留学生が我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を組織的に提供する。

## (4) 管理運営に関する目標

機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

また、事務の電子化、アウトソーシング等により事務の合理化を進め、事務職員を削減する。

事務職員の資質の向上のため、国立大学法人などとの人事交流を積極的に行うとともに、必要な研修を計画的に実施する。

## (5) その他

「勧告の方向性を踏まえた見直し案」（平成19年12月14日文科科学省）、「整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）及び「中央教育審議会答申」（平成20年12月24日）を踏まえ、平成21年10月に既設の8つの高等専門学校を4つに統合するとともに、新設される仙台高等専門学校、富山高等専門学校、香川高等専門学校、熊本高等専門学校については、時代や地域の要請に即応した新しい機能を備えた高等専門学校を目指すとの統合の趣旨に沿い、学年進行にあわせ、適切に整備を進める。

## Ⅲ 業務運営の効率化に関する事項（第2号）

高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他は1%

の業務の効率化を図る。

55の国立高等専門学校が1つの法人にまとめられたスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

また、業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。

さらに、平成19年度に策定した随意契約見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、随意契約見直し計画の取組状況をホームページにより公表する。



呉工業高等専門学校  
第2 期中期目標期間 中期計画・年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

## 2 呉工業高等専門学校第2期中期目標期間 中期計画・年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

### 1 教育に関する事項

#### (1) 入学者の確保

【中期計画】

①入学志願者増加に繋がる効果的な広報を実施するための全学的体制を構築する。

【年度計画・活動内容】

#### 地域の中学校校長会等との連携

平成21年度

##### 地域の中学校校長会等との連携

【活動内容】呉市中学校校長会の会長を訪問し、高専の教育内容や進路等の説明を行った。  
また、中学校校長会で高専のパンフレットを配付し、高専を紹介していただいた。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

呉市の中学校校長会において高専の説明を依頼するなど、他高専と協力して地域の中学校校長会との連携を深める。

【活動内容】6月に呉市中学校校長会会長、7月に広島県中学校校長会会長、8月に広島県中学校校長会理科部会会長を訪問して連携を協議した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域の中学校校長会等において高専の説明を依頼するなど、地域の中学校校長会との連携を深める。

【活動内容】10月31日の運営顧問会議に広島県中学校教育研究会理科部会会長の代理として、呉市横路中学校校長に参加していただき、本校の説明を行い、提言を求めた。

平成24年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

地域の中学校校長会等において高専の説明を依頼するなど、地域の中学校校長会との連携を深める。

【活動内容】呉市教育委員会と教育連携の協定を締結し、連携事業を開始した。運営顧問会議が平成25年7月に延期になったため、来年度に中学校校長に本校の説明を行い、提言を求めるととした。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

呉市教育委員会と連携した事業を進めるとともに、地域の中学校校長会等との連携を深め、高等教育機関としての呉高専の認知度を上げる。

【活動内容】年度初めの呉市校長会において本校の公開講座、出前授業等の説明を行った。運営顧問会議(7/26)を開催し、中学校長に参加していただき、本校の説明を行い、提言を求めた。呉市教育委員会との以下の連携事業を継続的に実施した。

- ・ 呉市全小中学校への本校主催「びっくりワクワクサイエンスショー」広報活動
- ・ 呉市教育委員会主催大和ミュージアム科学イベントなどへの協力(5回実施)
- ・ 次年度本校主催公開講座への呉市教育委員会後援(決定)
- ・ 次年度本校主催「びっくりワクワクサイエンスショー」への呉市教育委員会後援検討

#### 【年度計画・活動内容】

##### 入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等の実施

平成21年度

##### 入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等の実施

【活動内容】学校説明会を2回(8月と11月)、入試説明会を10月から11月にかけて5会場(呉市本校、広島市、福山市、三次市、東広島市)で開催するとともに、本校で開催した入試説明会では模擬授業を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

米子高専、広島商船高専と合同で高専説明会を計画・実施する。

【活動内容】6月27日(日)に福山市のショッピングモールにおいて、3高専合同「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、800名を超える参加者があった。

平成23年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

米子高専、広島商船高専と合同で高専説明会を計画・実施する。

【活動内容】6月26日に福山市で3高専合同「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、800名を超える参加者があった。8月7日に第1回学校見学会を開催して、昨年度より1.4倍増の575名の参加者があった。11月5日に第2回学校見学会を開催して、昨年度より1.6倍増の244名の参加者があった。10月～11月に入試説明会(5会場)を開催して、昨年度より1.6倍増の328名の参加者があった。6月19日に呉市レンガ通り、9月17日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学校見学会、入試説明会及び米子高専・広島商船高専と合同高専説明会を計画・実施する。

【活動内容】6月24日に福山市で3高専合同「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、多数の参加者があった。6月17日に呉市レンガ通り、9月23日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。8月5日に第1回学校見学会を開催し、昨年度より1.4名増の589名の参加者があった。10月に入試説明会(5会場)を行い296名の参加者があり、11月10日に第2回学校見学会を実施し、226名の参加者を得た。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学校見学会、入試説明会及び米子高専・広島商船高専と合同高専説明会を計画・実施する。

【活動内容】呉市レング通り(6月16日)、福山市ショッピングモール(6月23日)、広島市広島駅前地下広場(9月22日)において「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、多数の参加者があった。なお、福山会場は、米子高専と広島商船高専と3高専合同開催で実施した。第1回学校見学会(8月4日)を開催し、615名(昨年度より26名増)の参加者があった。入試説明会(10月～11月、5会場)を行い、289名(昨年度より7名減)の参加者があった。第2回学校見学会(11月2日)を開催し、180名(昨年度より46名減)の参加者があった。学校見学会では、学校紹介、学科紹介、クラブ紹介パネルの新規作成及び更新を行った。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 女子学生の志願者確保

平成21年度

女子学生の志願者確保

【活動内容】学校説明会等の説明を建築学科では、可能な限り女性教員や女子学生が行い、女子中学生に高専を身近に感じてもらうように工夫した。本年の推薦入試では、女子の志願者が増加した(女子9名→18名、男子21名→25名)。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

女子中学生や保護者に対して、女性技術者や女性研究者のロールモデルを提示できるようホームページや学校説明会などで情報発信を強化する。また、他高専と連携した情報発信の在り方についても検討する。

【活動内容】6月に広島県内の女子中高生に「理系ゴコロのススメ」のリーフレット(約50,000部)を配布した。8月8日の学校見学会において、女子中学生を対象とする「夏休み自由研究お助け教室」を開催した。8月23日と25日に「理系ゴコロ探検隊」として、マツダと国土交通省に勤務している卒業生を訪問した。10月2日と11月6日に講演会「理系ゴコロのススメ」を開催した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

女子中学生や保護者に対して、女性技術者や女性研究者のロールモデルを提示できるようホームページや学校見学会などでの情報発信を強化する。

【活動内容】8月7日の第1回、11月5日の第2回学校見学会において女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。「高専女子百科」を編集・発行した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。

【活動内容】8月5日の第1回学校見学会において女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。「高専女子百科」r.(呉高専版)を編集・発行した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。その際、女子学生を出身中学校へ派遣することを実施する。

【活動内容】第1回学校見学会(8/4)において、昨年度に引き続き女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。中学校訪問の際に「高専女子百科Jr.(呉高専版)」を配付した(広島県内全中学校)。女子学生が出身中学校を訪問し、呉高専の説明とPRを行った。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 効果的なPR活動

平成21年度

##### 効果的なPR活動

【活動内容】教員による中学校訪問を実施するとともに、呉市周辺の訪問学校数を増やした。広島県域は124校(昨年度と同数)。呉市周辺の重点校は、昨年度から24校増やし59校とし、全体で183校を訪問した(国公立中学校の72%)。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学校訪問時に当該中学校の卒業生を同行するなど、効果的なPRとなるよう活動内容を見直し実施する。

【活動内容】中学校で開催される進路説明会に当該中学校の卒業生を派遣した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学校訪問時に当該中学校の卒業生を同行するなど、効果的なPRとなるよう活動内容を見直し実施する。また、呉高専紹介DVDの配布を積極的に行う。

【活動内容】中学校で開催される進路説明会に当該中学校の卒業生を派遣した。学校紹介DVDを中学校訪問時に持参・配布した。10月～11月の入試説明会(5会場)や第2回学校見学会でDVDを放映した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学校訪問における訪問先と訪問方法の見直しなど、効果的なPRとなるような事業を実施する。また、呉高専を紹介するホームページの充実を図る。

【活動内容】中学校への訪問方法を見直し、相手中学校にも負担にならない方式に改めて広島県の全中学校を対象とし、186校を訪問(資料送付を含む)した。ホームページの充実を図り、内容の更新をその都度行った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。また、呉高専を紹介するホームページの充実を図る。

【活動内容】相手中学校に可能な範囲（対応教諭や対応時間等）で対応していただく方式で、広島県の全中学校を訪問した。呉高専日誌などホームページの充実を図り、内容の更新をその都度行った。学校紹介、学科紹介、イベント展示用クラブ紹介パネル等の新規作成及び更新を行った。教育センター棟入口にショールームを設置し、学生・教職員の活躍した事例の展示・PRを行った。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 中学生及び保護者を対象としたパンフレットの作成・配布

#### 平成21年度

##### 中学生及び保護者を対象としたパンフレットの作成・配布

【活動内容】中学生向きの学校案内、Q&Aパンフレット、パワーポイント説明資料を作成して配布した。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学生とその保護者にアピールできる内容のパンフレット等を作成し、他高専と連携して幅広く配布するよう検討する。

【活動内容】学校紹介のパンフレットを2種類作成し、概略版は広島県の中学3年生全員に、詳細版は中学校のクラス単位で配布した。女子中高生理系進路選択支援事業において奈良高専などと協働して、理系進路を紹介するリーフレットを作成し、広島県の女子中高生全員に配布した。

#### 平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学生とその保護者に、中学の早い時期から進路の有利性などの高専をアピールできる内容のパンフレット等を作成し、他高専と連携して幅広く配布するよう検討する。

【活動内容】学校紹介のパンフレットを2種類作成し、概略版は広島県の中学3年生全員に、詳細版は中学校のクラス単位で配布した。10月～11月の入試説明会（5会場）や第2回学校見学会でパンフレットを配布した。

#### 平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学生とその保護者に、中学の早い時期から進路の有利性などの高専をアピールできる内容のパンフレット等を作成し、低学年から配布する。

【活動内容】2種類の学校案内を1つに統合し、内容を一新した。中学1年生にも学校案内を配布するようにした。広島県以外の中学校へも案内資料を送付した。

#### 平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

中学生とその保護者に、中学の早い時期から進路の有利性などの高専をアピールできる内容のパンフレット等を作成し、低学年から配布する。

【活動内容】昨年度内容を一新（2種類を1つに統合）した学校案内の更新を行った。中学1年生にも学校案内を配布した。広島県以外の中学校へも継続して案内資料を送付した。おもしろ科学体験フェスティバルなどのイベントにおいてパンフレット等を積極的に配布した。

## 【年度計画・活動内容】

### 入学志願者増加対策 (H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

入学者選抜委員会で中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を組織的に検討する。

【活動内容】中学校側が提供を希望する情報（推薦入学試験における調査書の成績と合格率の関係など）を学校説明資料に掲載して、中学校に配布するなど、広報内容の見直しを行った。中断していた学習塾の訪問を再開したが、訪問数は不十分であった。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

入学者選抜委員会で中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を多方面にわたって組織的に検討する。

【活動内容】学生寮の説明など中学生と保護者が提供を希望する情報を学校説明資料に掲載して中学校に配布するなど、広報内容の見直しを行った。6月19日に呉市レンガ通り、9月17日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。推薦入試の志願者数は198名で、昨年度より1.4倍増であった。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

入学者選抜委員会で中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を多方面にわたって組織的に検討する。

【活動内容】呉高専における1年～5年の授業内容に関する情報を学校案内に掲載して中学校に配布するなど、広報内容の見直しを行った。6月17日に呉市レンガ通り、6月24日に福山市ショッピングモール、9月23日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

各種のアンケートや中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を多方面にわたって組織的に検討する。

【活動内容】広島県内の中学校238校を訪問し、本校の説明とPRを行った。学校見学会や入学生へのアンケート等で希望が多かったクラブ紹介を学校見学会で行った。学校見学会や入学生へのアンケート等で本校を知るきっかけとなっていた「おもしろ科学体験フェスティバル」を広島市の広島駅地下広場で開催し、多数の参加者に本校の説明とPRを行った。

## 【中期計画】

②他教育機関等と連携して高専教育及び理工系分野の魅力を社会に発信する。

## 【年度計画・活動内容】

### 理工系分野の魅力の発信 (H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

女子中高生理系進路選択支援事業や戦略的大学連携支援事業を利用して理工系分野の魅力を紹介する。

【活動内容】女子中高生理系進路選択支援事業において奈良高専などと協働して、リーフレットの配布や職場見学などを実施した。戦略的大学連携支援事業において、広島文化学園大学や広島商船高専と連携して公開講座などを開催した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広島テクノショップランチを活用する高専連携事業などを利用して、理工系分野の魅力を幅広く紹介する。

【活動内容】9月4日と9月14日に広島経済大学立町キャンパス内の広島テクノショップランチにおいて「キャリア開発キャンプ」を開催し、ビジネスプランやボランティアプランを発表した。広島文化学園大学や広島商船高専と共同で地域学「呉・芸南学」を開講した。女子中高生理系進路選択支援事業において奈良高専などと協働して「高専女子百科」を編集した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

アガデミア（阿賀学園地域教育連携協議会）や広島テクノショップランチを利用した事業などを通して、理工系分野の魅力を幅広く紹介する。

【活動内容】9月1日、2日の2日間、広島経済大学立町キャンパスにおいて「キャリア開発キャンプ2012」を開催し、ビジネスプランやボランティアプランを発表した。広島文化学園大学や広島商船高専と共同で地域学「呉・芸南学」を開講した。日本科学技術振興機構のサイエンスパートナーシッププロジェクト企画からの支援を受けて、「呉高専」「阿賀中学校」「市立呉高校」が連携して進める「アガデミア・サイエンス・スクール」を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

呉市教育委員会、アガデミア（阿賀学園地域教育連携協議会）、広島テクノショップランチを利用した事業などを通して、理工系分野の魅力を幅広く紹介する。

【活動内容】広島文化学園大学、広島商船高専、呉市などと共同で地域学「呉・芸南学」を開講した。広島テクノショップランチである広島経済大学立町キャンパスにおいて「キャリア開発キャンプ2013」（8/31、9/1）を開催した。アガデミア（阿賀学園地域教育連携協議会）文化発表会（12/14）に参加し、本校の活動を発表した。

#### 【中期計画】

③編入学生受入れ方針を再検討する。

#### 【年度計画・活動内容】

受験資格の見直し（H22～H23）

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高等学校卒業認定試験の合格者や他高専の3年修了生なども受験できるように受験資格の見直しを行う。

【活動内容】工業高校と普通高校の卒業生（卒業見込みを含む）に限定していたが、高校卒業が認定できる者に拡大した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成22年度に受験資格を高校卒業が認定できる者に拡大したので、この制度で引き続き実施する。

【活動内容】9月14日に編入試験を実施したが、工業高校以外からの受験者はいなかった。

#### 【中期計画】

④新たな入学者選抜方法を検討する。

#### 【年度計画・活動内容】

高専教育にふさわしい人材の確保に向けた入試方法の改善

平成21年度

高専教育にふさわしい人材の確保に向けた入試方法の改善

【活動内容】特になし

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

推薦入学における合格枠の拡大や試験内容の見直しを行う。

【活動内容】推薦入学試験における評価項目と配点の見直しを行った。なお、推薦入学による合格枠は、引き続き定員の40%とした。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

推薦入学における合格枠の拡大や試験内容の見直しを行う。

【活動内容】入学試験の成績と入学後の成績及び進路先等の追跡調査を行い、推薦入試による合格枠の拡大について検討を開始した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

推薦入学における合格枠の拡大や試験内容について検討を行う。

【活動内容】推薦入学者の追跡調査を実施した。優秀な学生を確保するため、編入学試験の実施時期の見直しを行い、平成25年度以降は9月から7月に繰り上げることとした。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

入学者の追跡調査を実施し、入試方法の改善を検討する。

【活動内容】本科の推薦入学選抜における推薦書の書式を変更するとともに、調査書の「活動の記録」の評価方法について検討を行った。専攻科の入学試験において、英語は平成27年度入試においては外部試験を併用し、平成28年度入試から外部試験だけを利用することとした。

## 【年度計画・活動内容】

### 入学者の学力水準や入学志願者の維持

#### 平成21年度

##### 入学者の学力水準や入学志願者の維持

【活動内容】入学志願者の増加が結果的に学力の高い学生の確保につながるため、入学志願者が増加するよう、様々な広報活動を行った。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

他高専と連携した広報活動などにより入学志願者の維持及び増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。

【活動内容】6月27日（日）に福山市のショッピングモールで3高専合同で高専教育を紹介する「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、800名を超える参加者があった。奈良高専などと共同で「理系ゴコロのススメ」を実施し、女子中学生への広報活動を実施した。

#### 平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

他高専と連携した広報活動や、呉市及び福山市での高専紹介イベントなどにより入学志願者の維持及び増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。

【活動内容】6月26日に福山市で米子高専・広島商船と3高専合同で「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。6月19日に呉市、9月17日に東広島市において「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。9月12日の学生指導教職員研究会において「入学志願者対策について」をテーマとした討議を実施した。推薦入試の志願者数は198名で、昨年度より1.4倍増であった。

#### 平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

他高専と連携した広報活動や、呉市、福山市、東広島市での高専紹介イベントなどにより入学志願者の維持及び増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。

【活動内容】6月24日に福山市で米子高専・広島商船と3高専合同で「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。6月17日に呉市、9月23日に東広島市において「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。

#### 平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

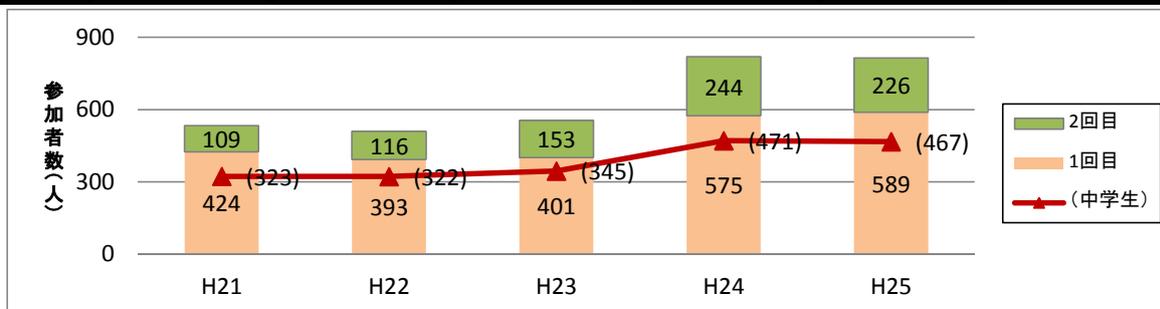
各種の広報活動や学校紹介イベントなどにより入学志願者の増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。

【活動内容】各種の広報活動において本校の特徴および学力レベルを紹介し、アドミッションポリシーに沿う入学志願者の増加を図った。

## ○学校見学会・入試説明会の参加者数及び志願倍率の推移(H21～H25)

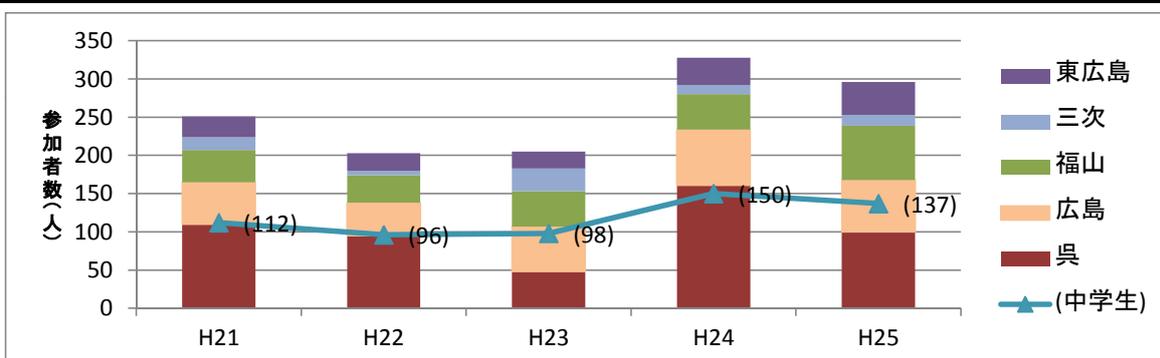
### 1. 学校見学会(1回目 8月、2回目 10月)

	H21	H22	H23	H24	H25	
学校見学会	1回目 (内中学生)	424 (265)	393 (263)	401 (265)	575 (346)	589 (359)
	2回目 (内中学生)	109 (58)	116 (59)	153 (80)	244 (125)	226 (108)
	<b>(中学生)</b>	<b>(323)</b>	<b>(322)</b>	<b>(345)</b>	<b>(471)</b>	<b>(467)</b>
	総計	533	509	554	819	815



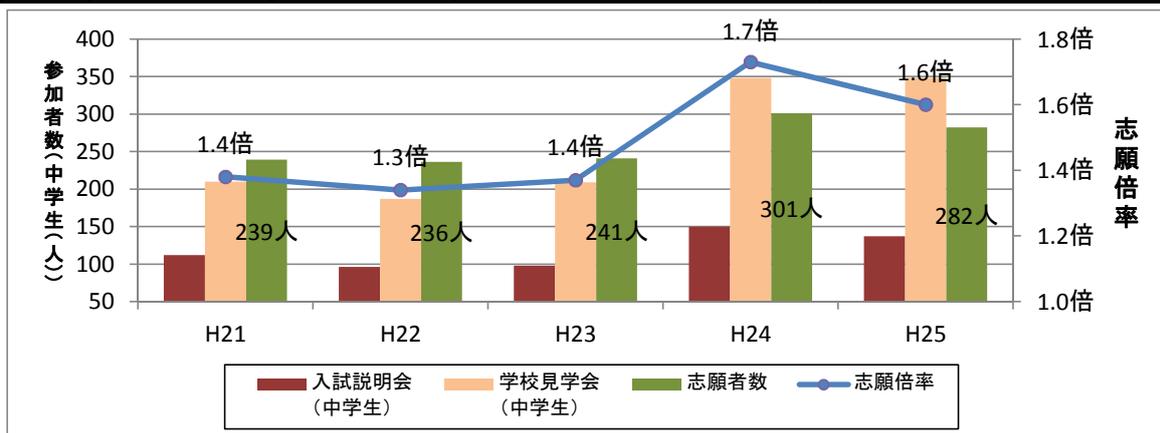
### 2. 入試説明会(10月、11月)

	H21	H22	H23	H24	H25	
入試説明会	呉	110	95	48	161	100
	広島	55	43	59	73	68
	福山	42	36	46	46	71
	三次	17	6	30	12	14
	東広島	27	23	22	36	43
	<b>(中学生)</b>	<b>(112)</b>	<b>(96)</b>	<b>(98)</b>	<b>(150)</b>	<b>(137)</b>
	総計	251	203	205	328	296



### 3. 参加者数(中学生)と志願倍率の推移

	H21	H22	H23	H24	H25	
参加者数と志願倍率	入試説明会	112	96	98	150	137
	学校見学会	210	187	209	348	348
	<b>志願者数</b>	<b>239人</b>	<b>236人</b>	<b>241人</b>	<b>301人</b>	<b>282人</b>
	<b>志願倍率</b>	<b>1.4倍</b>	<b>1.3倍</b>	<b>1.4倍</b>	<b>1.7倍</b>	<b>1.6倍</b>
	合格者数	173	176	176	174	176



○入学説明会、体験入学等入試広報関連事業一覧（平成21年度～平成25年度）

年度	事業名	事業の概要	対象	実施時期	実施回数	参加中学校	訪問中学校数						参加者数(総数)					備考	
							計		県内		県外		中学生	保護者	教員	その他	計(人)		
							延べ訪問校数	所要日数	延べ訪問校数	所要日数	延べ訪問校数	所要日数							
平成二一年度	入試説明会	中学生(受検生)に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	10.11月	5回	68校							96	100	7		203		
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	7-11月	14回	11校							1,240				1,240	参加者数は概算	
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当教諭	6-11月			197校	72日	187校	69日	10校	3日							
	おもしろ体験科学教室	中学生に実験等を体験させ科学の面白さを紹介すると共に、本校で学べることの一部を体験させる。	中学生・保護者・教諭	8月	1回	20校							28	10			38		
	出前授業	近郊の中学校へ出向き、中学生でも理解できる程度の専門科目に関連した授業を行い、本校の紹介を行う。	中学生	9月	3回	3校							94				94		
	公開講座	中学生に本校で学べることの一部を体験してもらう。	中学生・保護者	6-12月	12回								237				237		
					35回	102校	197校	72日	187校	69日	10校	3日	1,695	110	7		1,812		
平成二二年度	入試説明会	中学生(受検生)に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	10月	5回	67校							98	103	4		205		
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	4-11月	11回	10校							1,240		4		1,244	参加者数は概算	
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当教諭	6-1月			185校	66日	185校	66日									
	おもしろ体験科学教室	中学生に実験等を体験させ科学の面白さを紹介すると共に、本校で学べることの一部を体験させる。	中学生・保護者・教諭	8月	1回	22校							26	15			41		
	塾訪問	学習塾を訪問し、本校の紹介等を行う。	学習塾担当者	8.9.12月	9回														
	出前授業	近郊の中学校へ出向き、中学生でも理解できる程度の専門科目に関連した授業を行い、本校の紹介を行う。	中学生	6-8月	3回	2校							70				70		
市民セミナー	中学生に本校で学べることの一部を体験してもらう。	中学生・保護者	6-3月	11回								223				223			
					40回	101校	185校	66日	185校	66日			1,657	118	8		1,783		
平成二三年度	入試説明会	中学生(受検生)に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	10月	5回	96校							150	171	5	2	328		
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	4-11月	10回	10校							897	7	4		908	参加者数は概算	
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当教諭	6-1月			213校	143日	213校	143日									
	おもしろ科学体験フェスティバル	県高専単独開催で、また米子高専・広島商船高専と合同開催で、実験等を通し科学技術を体験・理解してもらい、併せて高専を理解してもらう。	中学生・保護者・教諭	6.9月	3回														
	出前授業	近郊の中学校へ出向き、中学生でも理解できる程度の専門科目に関連した授業を行い、本校の紹介を行う。	中学生	8.9.2月	4回	3校							88				88		
	市民セミナー	中学生に本校で学べることの一部を体験してもらう。	中学生・保護者	5-12月	15回								352				352		
					37回	109校	213校	143日	213校	143日			1,487	178	9	2	1,676		
平成二四年度	入試説明会	中学生(受検生)に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	10月	5回	90校							137	149	6	4	296		
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	5-11月	12回	12校							1,255	270	4		1,529	参加者数は概算	
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当教諭	6-1月			237校	106日	237校	106日									
	おもしろ科学体験フェスティバル	県高専単独開催で、また米子高専・広島商船高専と合同開催で、実験等を通し科学技術を体験・理解してもらい、併せて高専を理解してもらう。	中学生・保護者・教諭	6.9月	3回								500	250			750	参加者数は概算	
	進学説明会(塾主催)	進学説明会イベント(塾主催)へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者	6.9月	3回								1,000	550			1,550	参加者数は概算	
					23回	102校	237校	106日	237校	106日			2,892	1,219	10	4	4,125		
平成二五年度	入試説明会	中学生(受検生)に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	10月	5回	87校							141	140	8		289		
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者・教諭	5-11月	14回	14校							500	500			1,000	参加者数は概算	
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当教諭	7-12月			233校	108日	233校	108日									
	おもしろ科学体験フェスティバル	県高専単独開催で、また米子高専・広島商船高専と合同開催で、実験等を通し科学技術を体験・理解してもらい、併せて高専を理解してもらう。	中学生・保護者・教諭	6.9月	3回								500	250			750	参加者数は概算	
	進学説明会(塾主催)	進学説明会イベント(塾主催)へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・保護者	6.9月	3回								1,000	500			1,500	参加者数は概算	
					25回	101校	233校	108日	233校	108日			2,141	1,390	8		3,539		

## (2) 教育課程の編成等

### 【中期計画】

①中教審答申の趣旨及び高専機構の中期計画に呼応し、本科と専攻科の新たな教育課程の編成等を検討する。

### 【年度計画・活動内容】

地域や学生のニーズに応じた学科編成、学科の大括り化、コース制の導入

#### 平成21年度

地域や学生のニーズに応じた学科編成、学科の大括り化、コース制の導入を検討する。

【活動内容】将来的に大括り学科に移行することを前提に、カリキュラムの大幅見直しを開始した。その手始めとして、大括り学科を先行導入している高専へ訪問調査を実施した。

#### 平成22年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

平成21年度に実施した他高専への訪問調査など様々な調査結果を参考に、学科の大括り化や混合学級の導入を含めてカリキュラムの見直しを行う。

【活動内容】全学科共通で実施する初期導入科目やものづくり実習科目の導入など、新しいカリキュラムを検討したが、初年次導入科目などの導入は平成24年度に見送ることになった。大括り化等については、将来計画検討WGにて検討し、当面は4学科体制で行うことになった。

#### 平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

短期的学科再編の見送りを踏まえた上で、学科の大括り化、コース制及び混合学級の導入、更に地域・産業界のニーズを視野に入れた長期的な学科再編について、継続して検討する。

【活動内容】学科の大括り化、コース制及び混合学級の導入等について検討した結果、転科枠の拡大を実施することが決定し、入学者選抜委員会で実施に向けて検討することになった。長期的な学科再編については、本科4・5年及び専攻科1・2年に機械・電気アドバンスコース、環境・建築アドバンスコース、グローバルコースの副プログラムを設置することを検討した。本校のJABEE認定4プログラムを、将来的に複合工学系プログラムとして統一化することを検討した。「JABEE認定制度と2012年度基準改定」講演会に参加し、1プログラムに移行するための必要事項について明確化した。将来計画WGの提案について、将来計画推進部会において実施に向けた検討を行った。

#### 平成24年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

JABEEプログラムの1本化および専攻科の大括り化を検討する。

【活動内容】JABEEプログラムの1本化および専攻科の大括り化の検討を開始した。

#### 平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

複合教育・総合教育を念頭に置き、JABEEプログラムの1本化及び専攻科の大括り化を検討する。

【活動内容】教育改革検討プロジェクトを設置し、学科及び専攻科の統合・再編、養成しようとする技術者像と修得すべき技術、その具体的到達目標等について検討した。学科、専攻ごとに今後の学科・専攻の在り方に関する検討を行うとともに、学校全体での学内ヒアリングを3回開催し、本校が目指すコンセプト及びそれを達成するためのプロセスについて検討した。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 地域や産業界のニーズに応じたカリキュラムの改訂(H23~H25)

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域や産業界のニーズに応じた教育内容となるように、学校全体のカリキュラムの改訂を行い、平成24年度から新しいカリキュラムを実施できるように準備を行う。

【活動内容】平成23年度から持続発展教育(ESD)とキャリア教育を全科目で展開し、教育目的をシラバスに明記して意識付けを行った。本科において全学科共通で実施する初期導入科目「技術者入門」の導入や科目の再編成を行い、平成24年度から実施するカリキュラム案を決定した。専攻科においては、科目の統合、廃止と新設を行い、平成24年度の教育課程表を決定した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構の示すモデルコアカリキュラムとの整合を検討するとともに、地域や産業界のニーズに応じた教育内容となるように、本科及び専攻科におけるカリキュラムの改訂を検討する。

【活動内容】持続発展教育(ESD)とキャリア教育を全科目で展開するとともに、教育目的をシラバスに明記して意識付けを行って実施した。本科において全学科共通で実施する初期導入科目「技術者入門」及び「社会科学入門」を実施した。高専機構の提示したモデルコアカリキュラム(試案)に対する適合性を検討し、分野別専門能力に関しては、現行科目の内容見直しで対応可能であるが、基礎的能力に関しては、ライフサイエンス・アースサイエンスについて科目を新設する必要があることが判明した。これを受けてMCCに対応する内容となるようにカリキュラム検討WGを立ち上げて、分野横断的能力を含めて到達目標の達成度の評価方法の検討を開始した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

モデルコアカリキュラムとの整合をとるとともに、地域や産業界のニーズにも応じた教育内容となるよう、本科及び専攻科におけるカリキュラムを改訂する。特に、エンジニアリングデザイン教育については内容を大きく見直し、再構築する。

【活動内容】教育改革検討プロジェクトを設置し、学科と専攻で修得する技術、並びに具体的到達目標について検討するとともに、教育方法及び教育改善について検討を行い、地域の課題を取り上げたPBLの実施など学生が自ら学ぶ教育を充実することとした。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 学習到達度試験の継続実施

平成21年度

学習到達度試験の継続実施

【活動内容】平成22年1月13日に学習到達度試験(3年生で数学・物理)を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成22年度も学習到達度試験を実施するとともに、TOEIC を活用して基礎学力の定着度を検証する。

【活動内容】6月23日に英語統一試験（TOEIC）を実施し、英語学力の定着度を検証した。H23年1月13日に数学と物理の学習到達度試験を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学習到達度試験を実施するとともに、TOEIC を活用して基礎学力の定着度を検証する。

【活動内容】12月6日に英語統一試験を実施した。1月12日に数学と物理の学習到達度試験を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学習到達度試験を実施するとともに、TOEIC を活用して基礎学力の定着度を検証する。

【活動内容】12月4日に英語統一試験を実施した。平成25年1月に数学と物理の学習到達度試験を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学習到達度試験や TOEIC を通して基礎学力の定着度を検証し、これらも活用することにより、基礎学力の充実を図る。

【活動内容】英語統一試験を実施した（12/3）。数学と物理の学習到達度試験を実施した（1/14）。数学と英語については、定期試験の成績不振者を対象とした補習授業「寺子屋」を開講し、基礎学力の向上を図った。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価の実施

平成21年度

卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価の実施

【活動内容】各科目で年間2回の学生授業評価アンケートを実施して授業改善を行った。平成20年度末に実施した学生による教育環境評価アンケート結果を分析・検討し、可能なものから改善した。また、学年末には平成21年度分を実施する予定である。保護者も参観できる公開授業を1～3学年で実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

他高専の評価方法などを参考に、授業評価アンケートの内容を再検討する。

【活動内容】学生による授業評価アンケートの質問項目及び報告書の書式を見直して5月末の前期中間試験から新しい内容で実施するとともに、公表内容の一部見直しを行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

他高専の評価方法などを参考に、卒業生を含めて授業評価アンケートを実施する。

【活動内容】定期試験後に学生授業評価アンケートを実施した。評価結果をできるだけ早くフィードバックできるように、アンケートの内容及び実施方法の見直しを行った。卒業生アンケートの実施内容を検討した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

他高専の評価方法などを参考に、卒業生を含めて授業評価・学校評価アンケートを実施する。

【活動内容】前期末に学生授業評価アンケートを実施した。また、評価結果をできるだけ早くフィードバックできるように、アンケートの内容及び実施方法の見直しを行った。平成24年10月に実施した保護者公開授業の際に保護者アンケートを行った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生による授業評価アンケート、教育環境アンケート、保護者による学校評価アンケートを実施する。

【活動内容】保護者アンケートを実施した(5/9、10/22)。学生に対し授業評価アンケートを実施した(学期末)。学生に対し「良い先生」に関するアンケートを実施した(前期末)。

【中期計画】

②「ものづくり」、教養教育及びPBLを重視した教育実施方法の改善策を検討し、順次、実施する。

【年度計画・活動内容】

学生の意欲向上や高等専門学校イメージの向上に資する全国的な競技会やコンテスト

平成21年度

学生の意欲向上や高等専門学校イメージの向上に資する全国的な競技会やコンテスト

【活動内容】ロボコン全国大会で準優勝、デザコン(構造部門)で審査員特別賞、プロコン(競技部門)で敗者復活戦4位等の結果であった。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励するとともに、教員の負担のより均等化を図る。

【活動内容】ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト及びプレゼンテーションコンテストに参加した。デザインコンテスト等で全国規模の優秀な成績を収めた。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励するとともに、教員の負担のより均等化を図る。

【活動内容】ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト及びプレゼンテーションコンテストに参加した。デザインコンテスト全国大会では、3部門で入賞を果たし、プレゼンテーションコンテストでは、地区大会で優勝し全国大会に出場した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励する。

【活動内容】ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト及びプレゼンテーションコンテストに参加した。デザインコンテストは、3部門で予選通過・全国大会に出場し、審査員特別賞を受賞した。また、CADコンでは、最優秀製作技術賞、最優秀作品賞を受賞し、更に総合優勝を果たした。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

ものづくりに関連した全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励・支援する。

【活動内容】ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト及びプレゼンテーションコンテストの中国大会へ参加した。デザインコンテストでは、全国大会に出場し、審査員特別賞を受賞した。CADコンでは、優秀賞を受賞した。キャンパスベンチャーグランプリ中国では、特別賞を受賞した。

【中期計画】

③持続発展教育の観点をつまえた新授業科目の導入や既存科目のシラバスの改善を行う。

【年度計画・活動内容】

ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動等の実施

平成21年度

ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動等の実施

【活動内容】阿賀学園地域教育連携協議会（愛称 アガデミア）において、阿賀学園地域の道路や公園に落ちているゴミを拾う「クリーン・アップ・ザ・アガ」を実施した。また、インターアクトクラブは、学校周辺の清掃、老人ホーム訪問、車椅子清掃及び街頭募金などを行った。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し、イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。

【活動内容】持続発展教育を全ての科目で意識して実施できるようにするため、シラバスの記載項目を平成23年度から変更することになった。キャリア開発セミナーを開講して、ボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し、イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。

【活動内容】平成23年度から持続発展教育（ESD）を全科目で展開し、教育目的をシラバスに明記して意識付けを行った。キャリア開発セミナーを開講して、ボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを2月2日に開催した。10月12日にアガデミア行事として「クリーンアップザアガ」の一斉清掃に1年生全員が参加した。

平成24年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し、イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。

【活動内容】キャリア開発セミナーを開講し、後期にボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを実施するとともに、多くの学生が自主的にボランティア活動を企画・実施し、地域から高い評価を得た。10月10日にアガデミアの一環として、津波避難訓練を企画し、阿賀地区全体で実施した。

平成25年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し、イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。

【活動内容】キャリア開発セミナーを開講し、ボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを実施するとともに、多くの学生が自主的にボランティア活動を企画・実施し、地域から高い評価を得た(1/26)。アガデミアの一環として、津波避難訓練及びクリーンアップ・ザ阿賀を企画したが、台風のため実施できなかった(10/9)。

#### 【中期計画】

④外部資金による教育関連特別プロジェクトの成果を継承し、発展させる。

#### 【年度計画・活動内容】

原子力人材育成、国際性向上各プロジェクトの実施(H22～H23)

平成22年度：実施結果 III「十分に実施した。」

昨年度実施成果を踏まえ、各プロジェクトとも継続的に発展させる。

【活動内容】原子力人材育成に関しては、原子力関連インターンシップを今年度新たに実施した。また、国際性向上に関しては、ロシアに学生を派遣し、インターンシップを実施した。

平成23年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

昨年度実施成果に基づき、各プロジェクトとも状況を見ながら継続的に発展させる。

【活動内容】原子力人材育成に関しては、東日本大震災での東電福島第1発電所の被害・事故の現状及び原子力関連技術を取り巻く状況を考慮し、プロジェクトは中断した。専攻科「放射線と物質」、「エネルギー工学」の授業の一部を取り上げ講義した。国際性向上に関しては、ロシアトムスク工科大より学生2名を招き、8月から9月にかけての2週間で特別プログラム研究を実施した。

#### 【年度計画・活動内容】

地域と協働した科学技術関連プロジェクトの実施(H24～H25)

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

昨年度実施状況を見ながら、各プロジェクトを継続的に発展させる。

【活動内容】JSTサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）により、アガデミア・サイエンススクールを次のとおり実施した。

- ・ マイコン実習コース（初心者向けコース）5回（第1回6/2（土）、第2回6/24（日）、第3回7/7（土）、第4回7/22（日）、第5回8/26（日）：阿賀中学校生徒10名対象）
- ・ マイコン実習コース（中級者向けコース）1回（12/22（水））
- ・ ライフサイエンスコース3回（第1回8/26（日）阿賀中学校生徒及び呉高校学生対象講演会（演題：「広島県の絶滅のおそれのある昆虫たち」、講師：広島市昆虫館 学芸員 坂本充 氏）、第2回11/28（水）及び第3回12/5（水）「日本固有種のメダカと外来種のカダヤシが共存できるか否か」）

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

各プロジェクトを継続的に発展させるため、JSTサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）及び科学技術コミュニケーション事業について、地域の中学、高校等と連携し、実施の可能性を検討する。地（知）の拠点整備事業（COC事業）に公募し、呉地域の活性化に全校あげて取り組む。

【活動内容】JSTのSPP事業に関し、阿賀中及び市立呉高校教諭と検討した結果、今年度両校でSPPを希望する学生数は少なく、実施困難との結論に至った。なお、代替事業として、近隣の小中高生徒を対象にした「びっくりワクワクサイエンスショー」（11/3）を実施した。なおこの企画には100名以上の参加があった。

### (3) 優秀な教員の確保

#### 【中期計画】

①教員人事において、教育力と人間力及び教育・社会貢献を支える研究力を評価するとともに、高専機構の定めた学位取得者比率基準に合致する状況を維持する。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 多様な背景を持つ教員（教授及び准教授）の確保

#### 平成21年度

##### 多様な背景を持つ教員（教授及び准教授）の確保

【活動内容】平成21年度に採用した教員の出身母体は、国立大学2名（助教1名、非常勤講師1名）、建築系民間研究所1名、民間国際教育機関（英語）1名で、多様な機関から採用した。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。

【活動内容】本年度選考した教員は、全員公募であり、様々な経歴を有する者を採用した。

#### 平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。

【活動内容】数学、英語、機械工学及び電気情報工学分野の教員の公募を行った結果、計3名の教員の採用が決定した。

(多様な背景を持つ教員の内訳)

- ・英語：短大教員
- ・数学：中学校教員
- ・電気：大学研究員

#### 平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。

【活動内容】数学、英語、化学、機械工学分野、電気情報工学分野、環境都市工学分野、建築学分野の教員公募を行った結果、計9名の教員の採用が決定した。

(多様な背景を持つ教員の内訳)

- ・数学：大学教員
- ・英語（2名）：大学教員1名、中学・高校教員1名
- ・化学：大学研究員
- ・機械工学分野（2名）：民間企業
- ・電気情報工学分野：民間企業
- ・環境都市工学分野：大学院生（兼大学研究員）
- ・建築学分野：大学非常勤講師

#### 平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。

【活動内容】教員公募（機械工学分野）により、他大学で三次元 CAD、CAM の技師経験を持つ教員 1 名を採用した。教員公募（人文社会系分野（体育））により、他大学での教員経験を有し、広島県内のサッカークラブのコーチを兼任している教員 1 名の採用を決定した。

#### 【年度計画・活動内容】

専門科目（理系の一般科目を含む）で博士修得者や職業上の高度の資格を持つ者及び一般科目で修士修得者や高度な実務能力や教育能力を有する者の採用

#### 平成 21 年度

専門科目（理系の一般科目を含む）で博士修得者や職業上の高度の資格を持つ者及び一般科目で修士修得者や高度な実務能力や教育能力を有する者の採用

【活動内容】採用者のうち、専門科目は、全員博士の学位取得者であり、一般科目は、2 名中 1 名は博士、他は修士の学位取得者である。

#### 平成 22 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

一般科目担当教員については、必ずしも博士の学位を応募の資格条件とはせず、修士以上を資格条件として教育面を重視した採用を行う。

【活動内容】本年度実施した国語と英語の教員採用に係る応募条件は修士以上として、教育面を重視した選考を行った。

#### 平成 23 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

一般科目担当教員については、必ずしも博士の学位を応募の資格条件とはせず、修士以上を資格条件として教育面を重視した採用を行う。

【活動内容】英語の教員採用にあつての応募条件は修士以上として、教育面を重視した選考を行い、教育歴が豊富な教員（英語教員 1 名、国語教員 1 名）の採用を決定した。

#### 平成 24 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

一般科目担当教員については、必ずしも博士の学位を応募の資格条件とはせず、修士以上を資格条件として教育面を重視した採用を行う。

【活動内容】英語教員の選考に当たっては、教育面を重視した選考を行い、中学・高校教員の教員経験を持つ英語教員を新たに 1 名採用した。

#### 平成 25 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募文書の書き方（特に応募資格や模擬授業のやり方）を工夫し、高専において熱意をもって教育・研究、学生指導等に従事できる優秀な教員を求める。面接選考では、本校の学生の能力を向上させるため、どのように教育を行い、授業を展開するかについての模擬授業により、優秀な教育能力を有するかどうかを見極める。

【活動内容】公募文書の書き方を工夫し、人文社会系分野（体育、国語）の 2 件の教員公募を行った結果、体育 11 名、国語 12 名の応募者があり、いずれの応募書類でも高専教育・研究・学生指導に熱意もつ応募者であることが確認された。当該教員選考において面接を行い、応募書類を踏まえ本校において教育・研究・学生指導をどのように展開するかプレゼンテーションを行わせた結果、優秀な教育能力を有する 2 名（体育 1 名、国語 1 名）を新規採用した。

【中期計画】

②女性教員、外国人教員を積極的に採用する。

【年度計画・活動内容】

女性教員の比率向上、支援策及び働きやすい職場環境の整備

平成21年度

女性教員の比率向上、支援策及び働きやすい職場環境の整備

【活動内容】平成21年度は、1名（4名中）の女性教員を採用した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募による選考の際、同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また、公募の資格条件にその旨の表記を付記することを検討する。

【活動内容】公募の資格条件に、同程度の能力であれば女性を優先的に採用することを明示するようにした。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募による選考の際、同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また、公募の資格条件にその旨を表記する。

【活動内容】女性教員の少ない分野での公募の資格条件に、同程度の能力であれば女性を優先的に採用することを明示するようにした。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募による選考の際、同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また、公募の資格条件にその旨を表記する。必要に応じて女性教職員のための環境整備を行う。

【活動内容】採用後5年目に当たる女性教員1名を准教授としての能力があると認め、昇任させることとした。

教員公募（人文社会系分野（英語））の結果、応募のあった15名（男性10名・女性5名）のうち、女性応募者2名を新規採用した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公募による選考の際、同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また、公募の資格条件にその旨を表記する。女性教職員のための環境整備を引き続き行う。

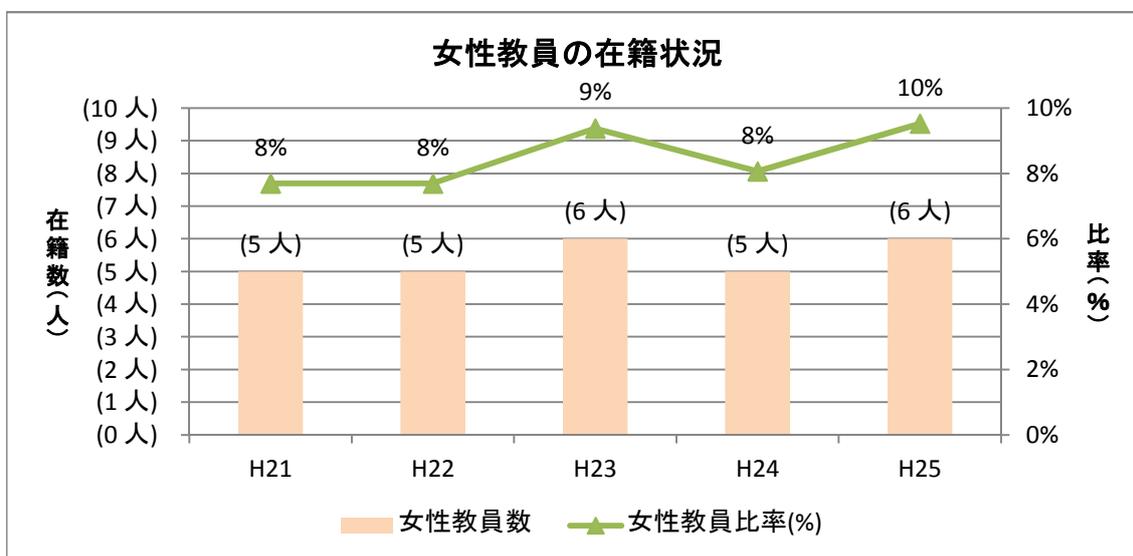
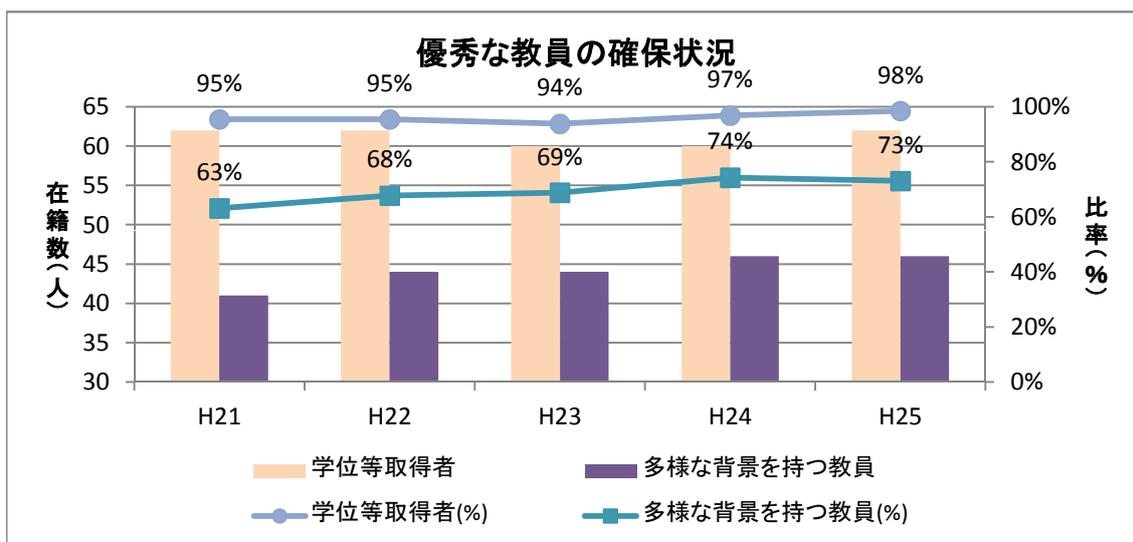
【活動内容】教員公募（人文社会系分野（国語））の結果、応募のあった12名（男性6名・女性6名）のうち、女性応募者1名を新規採用した。

教員公募（機械工学分野）の結果、応募のあった3名（男性2名・女性1名）のうち、女性応募者1名を新規採用した。

## 優秀な教員等の確保(多様な背景を持つ教員、博士修得者、女性教員)

### ○教員数等

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
年度末教員数		65人	65人	64人	62人	63人
(内女性教員)		(5人)	(5人)	(6人)	(5人)	(6人)
多様な背景を持つ教員		41人	44人	44人	46人	46人
内 訳	他学校勤務	25人	26人	29人	33人	34人
	民間企業勤務	21人	22人	19人	17人	17人
	海外経験	2人	2人	1人	3人	7人
学位等修得者		62人	62人	60人	60人	62人
内 訳	博士修得者	53人	53人	54人	53人	54人
	修士修得者 (博士取得者を除く)	9人	9人	6人	7人	8人



【中期計画】

③高専・技科大間の教員交流制度等を活用し、他機関勤務経験を通じた教員の能力向上策を推進する。

【年度計画・活動内容】

教員の力量、学校全体の教育力を向上させるため高等学校、大学、企業等との人事交流の促進

平成21年度

教員の力量、学校全体の教育力を向上させるため高等学校、大学、企業等との人事交流の促進

【活動内容】平成22年度の高専・両技科大間教員交流制度で福井高専と広島商船高専へ2名の教員の派遣と、広島商船高専から1名の受入れを決定した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専・両技科大間教員交流制度により、福井高専と広島商船高専へ2名の教員を派遣するとともに、広島商船高専から1名の教員の受入れを行う。

【活動内容】高専・両技科大間教員交流制度により、福井高専と広島商船高専へ2名の教員を派遣するとともに、広島商船高専から1名の教員を受け入れた。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専・両技科大間教員交流制度により、徳山高専へ1名の教員を派遣する。

【活動内容】平成23年度の高専・両技科大間教員交流制度により、徳山高専へ1名の教員を派遣した。平成24年度の高専・両技科大間教員交流制度により、東京高専へ1名の教員を派遣することが決定した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専・両技科大間教員交流制度により、東京高専へ1名の教員を派遣する。

【活動内容】平成24年度の高専・両技科大間教員交流制度により、東京高専へ1名の教員を派遣した。平成25年度の高専・両技科大間教員交流制度により、豊田高専へ1名の教員の派遣を申請した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専・両技科大間教員交流制度により、豊田高専へ1名の教員を派遣する。

【活動内容】高専・両技科大間教員交流制度により、豊田高専へ1名の教員を派遣した。

【年度計画・活動内容】

国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加

平成21年度

国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加

【活動内容】教育教員研究集会や留学生・国際交流担当教員研究集会などに参加した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育教員研究集会、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるように工夫する。

【活動内容】教員研修会（クラス運営・生活指導）、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ参加し、国際会議発表 36 件、学会発表・シンポジウム発表 125 件等多くの教員が発表等を行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育教員研究集会、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるように工夫する。

【活動内容】12月15日・16日に中国地区教員研究集会を企画実施し、18名の教員が参加した。

平成23年度中国地区高専専門学科教員英語能力強化研修に建築分野教員が参加した。

これ以外に、教員研修会（クラス運営・生活指導）、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が参加した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育教員研究集会、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるように工夫する。

【活動内容】機構等主催の教員研修会へ延べ21名が参加した。

（主な研修会等の内訳）

新任教員研究集会：3名、クラス経営・生活指導研修会：2名、管理職研修：1名、メンタルヘルス研究集会：2名、全国高専教育フォーラム：11名、工学教育協会高専教育部会教員研究集会：1名、高専・技科大連携教員研究集会：1名

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育教員研究集会など、各種の研究会・研修会・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるよう奨励する。

【活動内容】校長裁量経費による経費負担を行うことで国際学会への参加を奨励し、5名の教員がこの経費を利用して国際学会に参加した。

前期では、各種研修会等へ延べ21名の教員が参加した。

（内訳）新任教員研修会：8名、クラス経営・生活指導研修会：2名、管理職研修：1名、全国高専教育フォーラム：10名

後期では、各種研修会等へ延べ7名の教員が参加した。

（内訳）英語授業講義力強化プログラム：1名、「英語授業講義力強化プログラム」教育評価研修：2名、高専・技科大連携教員研究集会：1名、中国地区高等専門学校教員研究集会：2名、中国地区国立高等専門学校教員研修：1名

#### 【中期計画】

④教育活動や生活指導などに関する教員表彰を行う。

## 【年度計画・活動内容】

### 教育活動や生活指導などに関する教員表彰

#### 平成21年度

教育活動や生活指導などに関する教員表彰を行う。

【活動内容】教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果に基づき、3名の教員を校長表彰とし、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦した。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果に基づいて3名の教員を校長表彰し、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。

【活動内容】8月に「教員顕彰のための学生アンケート」を実施した。教育研究基盤校費に関する基礎調査、及び教育環境に関する学生アンケート調査にもとづき、上位5位までの教員を、校長表彰候補者として推薦した。

#### 平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果に基づいて3名の教員を校長表彰し、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。

【活動内容】8月に「教員顕彰のための学生アンケート」を実施した。教員環境に関する上位5位までの教員を、校長表彰候補者として推薦した。

#### 平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員顕彰に係る学生アンケートを実施する。教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果に基づいて3名の教員を校長表彰し、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。

【活動内容】8月に「教員顕彰のための学生アンケート」を実施した。教員環境に関する学生アンケート結果及び教育研究基盤校費に関する基礎調査結果を基に、上位5位までの教員を校長表彰候補者として推薦した。また、国立高等専門学校教員顕彰を2名が受賞した。

#### 平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員顕彰に係る学生アンケートを実施する。教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果を総合的に判断し、3名の教員を校長表彰し、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。

【活動内容】教員顕彰に係る学生アンケートに加え、教員の自己評価及び相互評価を考慮した結果、教員顕彰候補者としてふさわしい教員1名を決定し、機構本部へ推薦した。国立高等専門学校教員顕彰候補者に関し、教員自己評価、学生評価、及び教員間評価の3点から新たな採点方法を採用し、表彰者推薦のプロセスを見直した。

#### (4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

##### 【中期計画】

①教務主事・教育主任による明確な責任体制のもとで、教育改善 PDCA を着実に実施する。

##### 【年度計画・活動内容】

###### 資格取得の推進

平成21年度

###### 資格取得の推進

【活動内容】資格取得による認定単位が可能な資格を16種類設定して資格取得のモチベーションを上げている。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

資格取得を奨励するとともに、必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。

【活動内容】資格取得を奨励するとともに、資格試験の出題内容を授業の課題として課すなどして資格取得が容易になるように配慮した。資格取得に繋がる授業（不動産概論など）を開講するとともに、資格取得に詳しい非常勤講師を雇用した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

資格取得を奨励するとともに、必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。

【活動内容】資格取得による単位認定制度を設け、資格取得を勧めるとともに、資格試験に出題される内容を授業の課題として課すなど資格取得が容易になるように配慮した。資格取得に繋がる授業（不動産概論など）を開講するとともに、資格取得に詳しい非常勤講師を雇用した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

資格取得を奨励するとともに、必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。

【活動内容】資格取得による単位認定制度を設け、資格取得を勧めるとともに、資格試験に出題される内容を授業の課題として課すなどして資格取得が容易になるように配慮した。資格取得に繋がる授業（不動産概論Ⅰなど）を開講するとともに、資格取得に詳しい非常勤講師を雇用した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

資格取得を奨励するとともに、必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。

【活動内容】資格取得に繋がる授業（不動産概論Ⅰなど）を開講するとともに、資格取得に向け、一級建築士、技術士、コンクリート主任技師、公害防止管理者などの非常勤講師を採用した。

##### 【年度計画・活動内容】

サマースクールや国内留学等の学生の交流活動

## 平成21年度

### サマースクールや国内留学等の学生の交流活動

【活動内容】広島大学大学院総合科学研究科と教育研究交流協定を締結し、専攻科生が夏季長期インターンシップを利用して大学における研究体験を行った。

## 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成21年度に包括連携協定を結んだ広島大学へのインターンシップを含め、学生の交流活動に関する情報を積極的に提供する。

【活動内容】広島大学（本科生4名及び専攻科生1名）及び東海大学（専攻科生5名）にインターンシップ派遣を行い、交流を図った。

## 平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成21年度に包括連携協定を結んだ広島大学へのインターンシップを含め、学生の交流活動に関する情報を積極的に提供する。

【活動内容】校外実習・インターンシップとして、広島大学へ本科から1名、専攻科から3名の学生が行き、交流を図った。本科から、豊橋技術科学大学と電気通信大学へそれぞれ1名が校外実習として参加した。専攻科から、広島市立大学へ2名がインターンシップとして参加した。

## 平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め、学生の交流活動を積極的に推進する。中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。

【活動内容】校外実習・インターンシップとして、広島大学へ本科から2名、専攻科から1名の学生が行き、交流を図った。専攻科から、豊橋技術科学大学と早稲田大学へそれぞれ1名がインターンシップとして参加した。中国・四国地区高専専攻科生研究交流会に専攻科生7名が参加した。

## 平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め、学生の交流活動を積極的に推進する。中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。

【活動内容】夏季休業期間中に、包括連携提携校の広島大学へ校外実習として4名の学生が行き、交流を図った。夏季休業期間中に、中国・大連大学へ20名の学生が異文化交流プログラムとして行き、交流を図った。夏季休業期間中に、ハワイ大学マウイ校へ23名の学生がUHMC語学研修ホームステイとして行き、交流を図った。中国・四国地区高専専攻科生研究交流会に専攻科1年生全員が参加した。

### 【年度計画・活動内容】

理工系大学と教員研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育等の連携
---------------------------------------

## 平成21年度

理工系大学と教員研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育等の連携

【活動内容】高エネルギー加速器研究機構と連携して平成 22 年度から専攻科で先端工学に関する授業を開始するように検討を開始した。また、持続発展教育(ESD)に関して、広島地域の理工系部門を持つ大学と情報交換する組織作りを開始した。

平成 22 年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して、平成 22 年度から専攻科で先端工学に関する出前授業を開始する。また、広島地域の理工系部門を持つ大学と連携して持続発展教育(ESD)に関する情報交換を行う。

【活動内容】高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として、専攻科で先端工学を開講した。広島地域の理工系部門を持つ大学と持続発展教育(ESD)に関する情報交換を行う組織を構築したが、情報交換は十分に行えなかった。

平成 23 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して、専攻科で先端工学に関する授業を開講する。

【活動内容】高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として、専攻科で先端工学を開講した。早稲田大学大学院との覚書協定に基づいて専攻科から大学院への進学希望学生を推薦し・進学した。

平成 24 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して、専攻科で先端工学に関する授業を開講する。

【活動内容】高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として、専攻科で先端工学を開講するとともに、専攻科生 2 名が高エネルギー加速器研究機構を訪問した。

平成 25 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して、専攻科で先端工学に関する授業を開講する。

【活動内容】高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として、専攻科で先端工学を開講した。

#### 【中期計画】

②教員の研修経費を確保し、計画的に FD を実施する。

#### 【年度計画・活動内容】

教員の能力向上を目的とした研修の実施

平成 21 年度

教員の能力向上を目的とした研修の実施

【活動内容】毎月開催される教員会後にFD活動として、講演会や意見交換会を開催した。また、教員会開催日以外にも外部から講師を招いて講演会や講習会などを開催した。主なテーマは、特別支援教育、持続発展教育（ESD）、問題解決型教育（PBL）などである。

平成22年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

定期的にFD活動を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換が行えるような機会を設ける。

【活動内容】5月に「寮の運営」に関する意見交換会を実施した。9月、2月(2回)にSD講演会、3月に意見交換会を実施した。

平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

定期的にFD活動を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換が行えるような機会を設ける。

【活動内容】年間のFD活動計画を立案し、前期4回、後期6回の研修を行った。本校の将来計画に沿って教員研修の基本方針を検討した。

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

定期的にFD活動を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行なう機会を設ける。

【活動内容】年間のFD活動計画を基に、前期に4回、後期に5回、計9回の研修を実施した。

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

定期的にFD活動を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行なう機会を設ける。産業技術総合研究所関西センターが開講する組込み適塾に教員を参加させ、スキルアップを図る。

【活動内容】FD研修会は年6回開催し(5/1、5/23、9/19、10/30、11/20、2/7)述べ235人が参加した。教職員間の意見交換の場として、FD研修会(年6回)及び教員会(月1回、年12回)を設けている。産業技術総合研究所関西センターが開講する組込み適塾への教員参加は日程の都合で実施できなかったが、その代替りとしてルネサスエレクトロニクス社講師による公開講座「組込みシステムにおけるプログラム開発セミナー」を2日間開催し、2名の教員が参加、各自資質向上に努めた。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 一般科目や生活指導などに関する研修

平成21年度

一般科目や生活指導などに関する研修

【活動内容】数学、英語、物理などで複数の教員が同一科目を教えるものや積み上げ式の科目については、数学教育研究会など関係する教員が集まって授業内容及び授業方法に関する研修会を開催している。学生指導担当教員等研究会を開催し、学習態度の向上、指導者の心得、本研究会のあり方などについて意見交換を中心に研修を行った。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生指導担当教員等研究会の実施方法を見直し、全教員の参加による分科会方式で複数のテーマについて研修を行い、その成果の共有化を通して、新しい実施方法を検討する。

【活動内容】担当教員のみが参加していた学生指導教職員研究会を教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会に改めて、9月に実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を夏期休業期間中に実施する。

【活動内容】9月12日に教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を開催した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を夏期休業期間中に実施する。

【活動内容】9月13日に教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する学生指導教職員研究会を開催した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する学生指導教職員研究会を夏期休業期間中に実施する。

【活動内容】「第31回学生指導教職員研究会」を開催し、教職員53名が参加した。研究会では、①教務関係②学生関係③寮務関係の3テーマについて、グループ別討議及び全体発表とディスカッションを行った。なお、研究会の結果は報告書にまとめ、教職員へ配付した。

#### 【中期計画】

③中・高校教員との相互教育研修を実施する。

#### 【年度計画・活動内容】

公開授業への相互参加(H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

近隣高校との公開授業相互参加による教育研修を行う。

【活動内容】本校及び呉市立高校の公開授業に相互参加して教育研修を行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

近隣高校と公開授業による相互教育研修を行う。

【活動内容】10月26日～11月1日に実施する公開授業の案内を近隣高校へ出すとともに、呉市立、広島市立、広島県立の各種学校で実施される公開授業に参加した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

近隣中学校・高校との公開授業による相互教育研修を行う。

【活動内容】11月1日に実施する公開授業の案内を近隣学校へ出すとともに、呉市や広島市で実施される公開授業に参加した。

平成25年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

近隣中学校・高校等との公開授業による相互教育研修を行う。

【活動内容】近隣の公立高校の授業へ参加した。本校での公開授業は行っていない。

#### 【中期計画】

④教育センターにおけるICTを活用した新たな形態の教育を実施する。

#### 【年度計画・活動内容】

高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発

平成21年度

高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発

【活動内容】創立45周年記念事業のひとつとして、学年や学科を超えたグループで環境配慮型キャンパス「エコキャンパス」の実現をテーマとした課題発掘能力と課題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成できるアイデアデザインコンペを実施した。1～2年生を対象として、基礎学力向上プロジェクトを立ち上げ、数学、物理、英語について、成績不振者を対象に補習授業（寺子屋）を実施した。教員の教材作成支援を行い、教育・研究用として12教材（作業時間約250時間以上）を作成した。LMSとしてMoodleを立ち上げ、全学での展開に向けての準備を始めた。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

問題解決型教育（PBL）の導入を技術者教育に活かすため、PBLの考え方や実施方法などに関するFD活動を実施する。また、基礎学力向上のための補習授業（寺子屋）を実施する。

【活動内容】PBLを取り入れた授業を実施するとともに、授業成果報告会を呉市中央公民館で開催した。eラーニング推進オフィスを設置し、eラーニング教材の作成を全学的に実施した。前期中間試験後から低学年の基礎学力向上のための補習授業（寺子屋）を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

問題解決型教育（PBL）の導入を技術者教育に活かすため、PBLの考え方や実施方法などに関するFD活動を実施する。また、基礎学力向上のための補習授業（寺子屋）を実施する。

【活動内容】PBL型授業の体験をするとともに、授業の問題点を洗い出すために、教員が参加した模擬授業を実施した。eラーニング推進室を中心に、eラーニング教材の作成を全学的に進めるとともに、研修会を実施した。前期中間試験後から低学年の基礎学力向上のための補習授業（寺子屋）を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

e-ラーニング、問題解決型教育（PBL）の拡大・充実を図る。

【活動内容】 e-ラーニング推進室を中心に、e-ラーニング教材の充実を図り、実施した。全学科の1年生に対する情報リテラシーの授業内容及び方法をワーキンググループで検討し、実施した。高専教育への導入科目「技術者入門」を開講した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

e-ラーニング、問題解決型教育（PBL）の拡大・充実を図る。

【活動内容】 e-ラーニング推進室を中心に、e-ラーニング教材を作成し実施した。全学科の1年生に対する情報リテラシーの授業内容及び授業方法をWGで検討し、実施した。高専教育への導入科目「技術者入門」を開講した。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 企業と連携した教育コンテンツの開発

平成21年度

企業と連携した教育コンテンツの開発

【活動内容】 (株)アドウィンと連携して「3次元CAD入門講座」を開講し、その教材を開発した。また、e-ラーニングに関する教材開発作業を開始した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

(株)アドウィン等と連携した教材開発を継続する。

【活動内容】 (株)アドウィンとのコラボ公開講座を2回実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

(株)アドウィンと連携し、シーケンス制御科目に関する教材開発を継続する。また、必要に応じて他高専への教材普及の可能性を調査する。

【活動内容】 (株)アドウィンとの「ものづくり人材育成事業」を通して開発した教材について、他高専への普及の可能性を調査したが、他高専から要望は上がらなかった。次年度は、本教材の広報方法を検討することとした。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

(株)アドウィンとの「ものづくり人材育成事業」を通して開発された教材の他高専への普及の可能性を、広報を通して調査する。

【活動内容】 他高専に教材利用の検討を依頼したが、各高専のカリキュラムの整合性がまちまちであることが判明した。そのため、モデルコアカリキュラムに即した教材作成を検討する方が良いとの結論に至った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

組み込み系技術教材を協働して開発可能な地域企業を調査する。

【活動内容】 新規にルネサスエレクトロニクスと連携して、公開講座用の組み込みボードを用いた

教材を開発し、講座でソフトウェア開発実習に利用した。組み込み系教育に関して地域企業へのアンケートを実施し、その結果をもとに教材作成を（株）アドウィンと検討した。

#### 【中期計画】

⑤協働研究センターの支援のもとで、COOPの実施を推進する。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 産学官の連携による効果的なインターンシップの実施

#### 平成21年度

##### 産学官の連携による効果的なインターンシップの実施

【活動内容】4年生では、機械工学科47名中27名、電気情報工学科46名中20名、環境都市工学科38名中36名、建築学科45名中15名が校外実習に参加し、専攻科では1年生が全員インターンシップに参加した。本科生98名が64社、専攻科生27名が26社の企業にて校外実習・インターンシップを実施した。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本科生の校外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励するとともに、協定校のひとつであるロシアのトムスク工科大学への夏季研修を計画する。

【活動内容】8～9月の夏期休業期間中に、本科159名中108名、専攻科26名中25名が校外実習・インターンシップを履修した。本科生4名及び専攻科生1名がトムスク工科大学(TPU)の夏季研修に参加した。

#### 平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本科生の校外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励する。

【活動内容】8～9月の夏期休業期間中に、本科167名中119名、専攻科1年生全員25名と2年生1名が校外実習・インターンシップを履修した。

#### 平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本科生の校外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励する。

【活動内容】8～9月の夏期休業期間中に、本科166名中111名、専攻科1年生全員27名が校外実習・インターンシップを履修した。

#### 平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本科生の校外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励・支援する。

【活動内容】本科4年生169名中、114名が校外実習に参加した。専攻科1年生20名全員が校外実習・インターンシップに参加した。

**【年度計画・活動内容】**

**地域と連携した卒業研究の実施**

平成21年度

地域と連携した卒業研究の実施

【活動内容】 地域から卒業研究テーマの応募が9件あり、内8件を選定し実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。

【活動内容】 地域から卒業研究テーマの応募が11件あり、内6件を選定し実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。また、3年を超える卒業研究テーマの応募に関しては、共同研究に発展するよう当該企業及び教員に依頼する。

【活動内容】 地域から卒業研究テーマの応募が7件あり、内6件を選定し実施した。

なお、6件のうち2件が3年を超えるテーマのため、共同研究として実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。

【活動内容】 地域から卒業研究テーマの応募が7件あり、内4件を選定し実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。

【活動内容】 地域から卒業研究テーマの応募が8件あり、内4件を選定し実施した。

# 教育の質の向上及び改善のためのシステム

## ○ 校外実習・インターンシップ実施状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
(校外実習) (本外実習)	在籍者数	173 人	159 人	167 人	166 人	169 人	
	参加者数	98 人 (57%)	108 人 (68%)	119 人 (71%)	111 人 (67%)	114 人 (67%)	
	実施期間	1週間未満	9 人	62 人	77 人	77 人	84 人
		1週間以上2週間未満	89 人	45 人	41 人	34 人	30 人
		2週間以上1ヶ月未満			1 人		
1ヶ月以上3カ月未満			1 人				
(インターンシップ) (専攻科)	参加者数	27 人	25 人	26 人	27 人	20 人	
	実施期間	1週間未満	1 人			1 人	
		1週間以上2週間未満	21 人	23 人	23 人	25 人	17 人
		2週間以上1ヶ月未満	3 人	2 人	3 人		
		1ヶ月以上3カ月未満	2 人			1 人	3 人
参加者数計		125 人	133 人	145 人	138 人	134 人	

※実施期間における参加人数は、複数回参加した者を含めている。

## ○ 卒業研究テーマ応募採択一覧

年度	申請数	採択数	採択された研究テーマ	分野
H21	9	8	エマルジョン燃料の燃焼特性の研究	機械工学分野
			鉱物原料に対する遠心脱水および乾燥性能の物理的解析	機械工学分野
			「実験で学ぶ工業力学」教材の開発	機械工学分野
			コルヌ螺旋歯形歯車の歯元強度・歯面強度に関する研究	機械工学分野
			ガス小売業務ソフトウェアの開発	機械工学分野
			「実験で学ぶ交流理論」教材の開発	電気情報工学分野
			農業の自動化	環境都市工学分野
			建設汚泥による混合改良土のグラウンド材利用について	環境都市工学分野
H22	11	6	力学基本教育に関する教材開発	自然科学系分野
			視覚障害者と一緒に考えるユニバーサルデザイン	機械工学分野
			ナノ粒子の電界蒸発挙動および熱蒸発挙動に関する研究	機械工学分野
			エマルジョン燃料の燃焼特性に関する研究	機械工学分野
			コルヌ螺旋歯形歯車に関する研究	機械工学分野
			電気交流理論の教材開発	電気情報工学分野
H23	7	6	安価な(簡易な構造の)スパッタ・イオン・ポンプ(SIP)の開発(試作)	自然科学系分野
			力学基本教育に関する教材開発	自然科学系分野
			ナノ粒子の電界蒸発挙動および熱蒸発挙動に関する研究	機械工学分野
			二次電池の特性試験とその評価	電気情報工学分野
			電気交流理論の教材開発	電気情報工学分野
			水処理用微生物培養槽の開発	環境都市工学分野
H24	7	4	安価な(簡易な構造の)スパッタ・イオン・ポンプ(SIP)の開発(試作)	自然科学系分野
			電動ストレッチャ駆動用ブラシレス・モータ・ドライバの開発	電気情報工学分野
			二次電池の特性試験とその評価	電気情報工学分野
			水処理用微生物培養槽の開発	環境都市工学分野
H25	8	4	小型風力発電用直線翼垂直軸(固定翼、可変ピッチ翼、平行可変ピッチ翼)のポテンシャル評価	機械工学分野
			文字の読み取り紹介システム	電気情報工学分野
			差動速度制御型ブラシレス・モータ・ドライバの開発	電気情報工学分野
			電離水素水を応用したアロマオイルの抽出濃縮に関する研究	環境都市工学分野

【年度計画・活動内容】

知財教育の推進

平成21年度

知財教育の推進

【活動内容】学生を対象とした中国経済産業局主催による知的財産権セミナー「知的財産総合基礎セミナー」、「パテントマップ作成セミナー」を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生を対象とした中国経済産業局主催による知的財産権セミナー「知的財産総合基礎セミナー」、「パテントマップ作成セミナー」を実施する。

【活動内容】学内及び地域企業技術者を対象とした「知的財産総合基礎セミナー」、「パテントマップ作成セミナー」を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生及び地域企業技術者を対象とした知的財産権セミナーを実施する。具体的には「知的財産総合基礎」、「意匠」、「パテントマップを活用した特許戦略」等を計画する。

【活動内容】FD研修の一環として「知財セミナー」を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

学生及び地域企業技術者を対象とした知的財産権セミナーを実施する。

【活動内容】学内教職員・学生、地域企業人材を対象として、「IPDL 検索演習」、「パテントマップ演習」を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生及び地域企業技術者を対象とした知的財産権セミナーを実施する。

【活動内容】機構知財担当 CD 及び特許庁意匠課意匠制度企画室長による知財セミナーを2件実施した。後者のセミナーは地域人材へも開放した。

【中期計画】

⑥退職技術者等を特命教員や教育協力員として採用し、多様な経験を持つ人材を教育に活用することにより教育内容を拡充する。

【年度計画・活動内容】

企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用

平成21年度

企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用

【活動内容】企業技術者等活用プログラムを活用して、企業人材及び退職技術者を非常勤講師として雇用した。高専機構本部から採択を受けた「平成21年度「企業技術者等活用プログラム」」を通じて16名の企業等技術者を招聘し、各分野の教育プログラムに沿って、地域に根ざしたエンジニアリングデザイン教育を実施した。企業技術者等活用プログラムを活用して「プロジェクトマネジメントに基づくシステム開発」の活動を実施した。教育センターでコンテンツ作成やシステム開発に学生が参加したOJT的な教育の提供の準備を進めている。企業技術者等による工作実習の技術指導を実施した。企業技術者等による技術職員対象の技術指導（研修）を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。

【活動内容】10名の企業人材と1名の退職技術者を非常勤講師として雇用するとともに、2名の企業人材と2名の退職技術者を技術アドバイザー（特命教授）として雇用し、より実際に即した技術者教育を行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。

【活動内容】9名の企業人材と1名の退職技術者を非常勤講師として雇用するとともに、3名の企業人材と5名の退職技術者を技術アドバイザー（特命教授）として雇用し、より実際に即した技術者教育を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。

【活動内容】11名の企業人材と3名の退職技術者を非常勤講師として雇用するとともに、1名の退職技術者を技術アドバイザー（特命教授）として雇用し、より実際に即した技術者教育を行った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。

【活動内容】10名の企業人材と3名の退職技術者を非常勤講師として雇用するとともに、知的財産コーディネートを専門とする企業技術者を特命教授として雇用し、「知的財産権論」（専攻科・前期）の講義を開講することにより、効果的な技術者教育を行った。

【中期計画】

⑦副校長（総務企画）のもとで、JABEE 認定への取組みを推進する。

【年度計画・活動内容】

J A B E E 認定プログラムの更新・拡充

平成 2 1 年度

J A B E E 認定プログラムを更新・拡充する。

【活動内容】環境都市工学プログラムは 6 年目の継続受審を受けた。また、電気情報工学プログラムは新規に受審した。環境都市工学教育プログラムの JABEE 認定受審(継続)、電気情報工学教育プログラムの同認定受審(新規)を実施した。

平成 2 2 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機械工学プログラムと建築学プログラムに関して継続審査を受ける。

【活動内容】11 月 7～9 日に機械工学プログラムと建築学プログラムの JABEE 継続審査を受審した。

平成 2 3 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

電気情報工学プログラムに関して中間審査を受ける。

【活動内容】11 月 24～25 日に、電気情報工学プログラムに関して中間審査を受けた。次年度以降は、JABEE の 4 プログラムの統一に向けて準備することとした。

平成 2 4 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

J A B E E プログラムの統一に向け、準備を始める。

【活動内容】JABEE プログラムの統一に向けた対応として、本校 4 プログラムの前回受審結果をまとめ、C（懸念）評価となっている基準を明確にした。引き続き統一に向けて準備を行った。

平成 2 5 年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

J A B E E プログラムの統一に向け、準備を進める。

【活動内容】教育改革検討プロジェクトにおいて、鋭意検討した。

## (5) 学生支援・生活支援等

### 【中期計画】

#### ① 課外活動支援策及び学生生活環境改善策を検討・実施する

### 【年度計画・活動内容】

#### 図書館の充実や計画的な整備

平成21年度

図書館の充実や計画的な整備

【活動内容】第一・第二ゼミナール室を改修して、閲覧室を増設した。

平成22年度：実施結果 I 「実施していない。」

平成25年度までの整備計画を作成する。

【活動内容】平成21年度に作成したものの、改訂・充実を目指したが、委員会に提出する原案ができなかった。

平成23年度：実施結果 III 「十分に実施した。」

図書館を教育センターの基盤部門と位置付けて整備計画を作成する。

【活動内容】平成24年度から教育センター内に再雇用教員室を設置することなど、総務委員会施設計画部会と連携して整備計画を検討した。古い図書の更新計画を検討した。

平成24年度：実施結果 III 「十分に実施した。」

古い図書の更新を行うとともに、図書館を教育センターの基盤部門と位置付けて整備計画を検討する。学生に図書を選ばせるなど、図書館利用の拡大を図る。

【活動内容】ハンドブックや基準などの古い図書の更新を行った。学生に図書を選んでもらうブックハンティングの前期分を8月2日、後期分を11月30日に実施した。

平成25年度：実施結果 III 「十分に実施した。」

古い図書の更新を行うとともに、図書館を教育センターの基盤部門と位置付けて整備計画を検討する。

【活動内容】学生に1人1万円の予算内で自由に図書を選んでもらうブックハンティングの前期分を8月2日、後期分を11月25日に実施した。

## 図書館の利用及び整備の状況(H21～H25)

### ○ 図書館利用状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入館者数	年間	22,789 人	30,964 人	33,178 人	34,928 人	33,079 人
	1日平均	94 人	111 人	120 人	127 人	119 人
貸出者数	年間	3,099 人	2,720 人	2,435 人	2,556 人	2,326 人
	1日平均	13 人	10 人	9 人	9 人	8 人
貸出冊数	年間	5,860 冊	5,061 冊	4,341 冊	4,388 冊	3,948 冊
	1日平均	24 冊	18 冊	16 冊	16 冊	14 冊
開館日数		242 日	279 日	277 日	276 日	277 日

### ○ 蔵書推移

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
和書	78,732 冊	80,204 冊	81,400 冊	82,771 冊	84,145 冊
洋書	6,804 冊	6,891 冊	6,975 冊	7,020 冊	7,230 冊
合計	85,536 冊	87,095 冊	88,375 冊	89,791 冊	91,375 冊

### ○ パソコン利用状況

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
インターネット利用者	1,784 人	1,464 人	1,310 人	1,910 人	1,666 人
印刷枚数	----	2,648 枚	4,798 枚	8,904 枚	7,007 枚

【年度計画・活動内容】

寄宿舎（学生寮）の充実や計画的な整備 (H21～H23)

平成21年度

寄宿舎（学生寮）の充実や計画的な整備

【活動内容】留学生及び専攻科共用として6寮の整備計画を検討した。女子留学生のための寮整備について、検討した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

寮棟改修（6寮留学生、専攻科共用整備計画の推進）及び防犯対策を整備する。2寮、4寮、5寮、6寮の施錠管理（部外者、通学生の立ち入り禁止など）を実施する。各寮棟の門限時の強制施錠や防犯カメラを設置する。

【活動内容】第6寮（男子留学生及び男子専攻科生用）については、改修完了。第5寮（女子留学生及び女子専攻科生用）については、来年度に改修する予定である。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

女子学生の志願者確保に向けて、女子寄宿舎の整備を推進する。

【活動内容】H23年12月に改修完了、H24年1月より女子留学生入居。

【中期計画】

②低学年次生を重点として、規律ある行動習慣を身に付けさせる取組みを強化する。

【年度計画・活動内容】

学生指導の取組み強化 (H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。

【活動内容】「身なり指導の日」を3回実施し、身なりの乱れた学生については指導した。1年生に携帯電話教室を開催し、携帯電話の危険性について学ばせた。朝の挨拶運動を3回実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

「身なり指導の日」「挨拶運動」などを通して、学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。

【活動内容】前期中に「身なり指導の日」を1回、「挨拶運動」を1週間実施した。後期にも「身なり指導の日」を2回、「挨拶運動」を2回実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

「身なり指導の日」「挨拶運動」などを通して、学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。集団活動指導者研修や文化行事を実施する。

【活動内容】「身なり指導の日」を前期2回、後期2回実施した。また、「挨拶運動」を後期に開始し、1月に実施した。文化行事として、邦楽ユニット「WASABI」の公演を12月4日に実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

「身なり指導の日」「挨拶運動」などを通して、学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。集団活動指導者研修や文化行事を実施する。規律ある寮生活を身に付けさせるために、新入寮生への指導を強化する。

【活動内容】身なり指導は、全校4回、学年別5回（1年・2年：各1回、3年：3回）を実施した。挨拶運動を3回（15日）実施した。文化行事（音楽鑑賞会・12/3）を実施した。寮生会役員による新入寮生への指導（4寮ミーティング）を週1回実施した。新入寮生を指導する寮生会役員に対し、週1回ミーティングを開催し、新入寮生への指導について打合わせを行った。

#### 【中期計画】

③入学から卒業まで一貫したキャリア支援教育体制を導入する。

#### 【年度計画・活動内容】

学生の進路選択を支援する企業情報、就職・進学情報等の提供体制や専門家による相談体制の整備

平成21年度

学生の進路選択を支援する企業情報、就職・進学情報等の提供体制や専門家による相談体制の整備

【活動内容】1年生については、進路の決まった5年生の経験談を聞く企画を実施した。2年生については、自己分析及び適性検査を実施した。3年生については、自己分析及び進学・就職に関するガイダンスを実施した。4年生については、進路懇談会、外部講師による就職セミナー、能力適性検査（SPI）及び大学編入学対策セミナーを実施した。5年生については、就職・進学面接リハーサル及び前年度卒業生の就職・進学体験談をまとめた冊子の配付を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生の進路選択を支援するため、一連の企画を実施するとともに、場合によっては企画内容を再検討し、学生への進路選択の意識付けの定着を図る。

【活動内容】「呉高専キャリア教育プランSAPAR」の一貫として、次のとおり実施した。

(ア)SPI 模擬試験（6月16日、12月22日）、(イ)広島大学見学ツアー（8月8日）、(ウ)就職準備セミナー（6月2日、H23年1月19日）、(エ)編入学試験対策セミナー（7月22日、10月20日）

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生の進路選択を支援するため、一連の企画を実施するとともに、学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムの導入を図る。

【活動内容】学生の進路選択を支援するため、SAPAR 企画を立案・実施した。学生の学習・活動を記録する学生キャリアプロフィールシステムの仕様を決定し、来年度から実施できるように導入した。

平成24年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

学生の進路選択を支援するため、一連の企画（SAPAR）を実施するとともに、学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムの運用の準備を行う。本科4・5年生を対象に就職ガイダンスを実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問して情報収集を行う。

【活動内容】学生の進路選択を支援するための SAPAR 企画を立案・実施した。学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムを導入したが、運用するまでには至らなかった。低学年から就職ガイダンスを実施した。就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問して情報収集を行った。

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

学生の進路選択を支援するため、一連の企画（SAPAR）を実施する。学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムの運用を開始する。就職・進学ガイダンスを実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問して情報収集を行う。

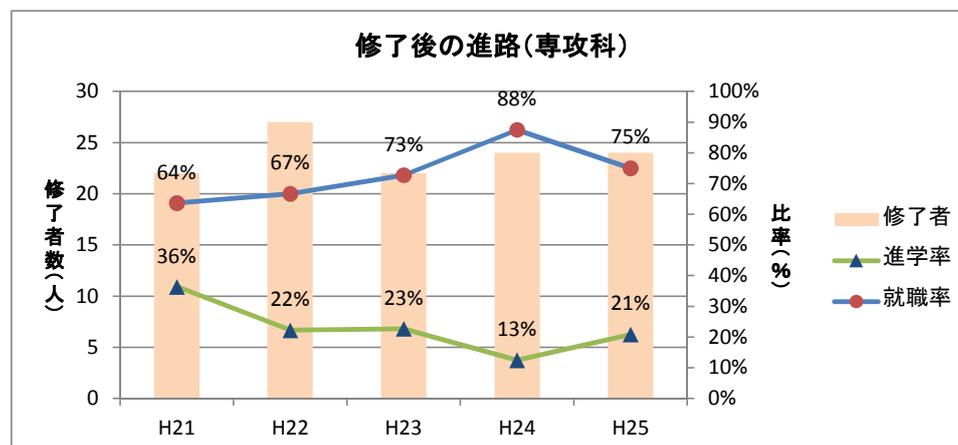
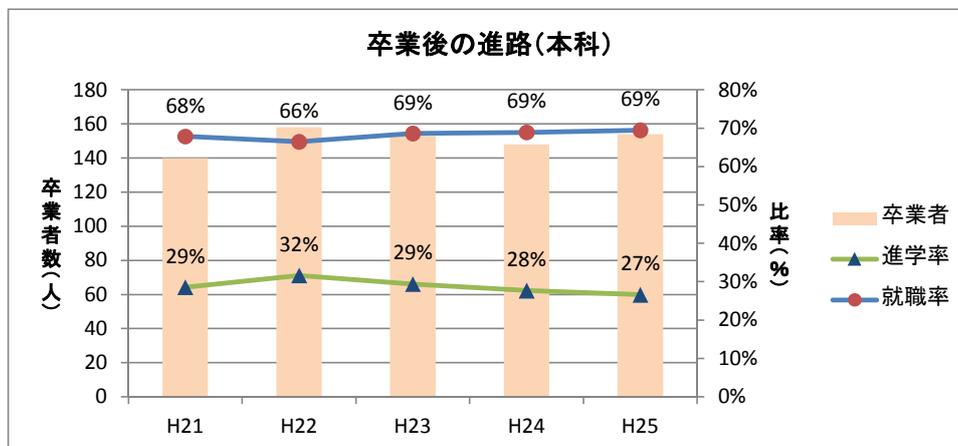
【活動内容】学生の進路選択を支援するため、SAPAR の一連の企画を立案・実施した。学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムを構築中である。コマ大戦呉高専場所を開催するとともに、会社研究会を開催した。就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問し情報収集を行った。

## 卒業生・修了者の進学・就職状況(H21～H25)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
本科	卒業生数	140 (20)	158 (27)	153 (23)	148 (13)	154 (22)	
	進学者数	40 (6) 29% (30%)	50 (9) 32% (33%)	45 (5) 29% (22%)	41 (3) 28% (23%)	41 (8) 27% (36%)	
	内訳	国立大	15	24	17	20	26
		公立大	2	1	1		1
		私立大			1	1	1
		専攻科	23	25	26	20	13
就職者数	95 (14) 68% (70%)	105 (18) 66% (67%)	105 (18) 69% (78%)	102 (10) 69% (77%)	107 (14) 69% (64%)		
その他	5	3	3	5	6		
専攻科	修了者数	22 (1)	27 (1)	22 (1)	24 (3)	24 (3)	
	進学者数	8 36%	6 22%	5 (1) 23% (100%)	3 13%	5 21%	
	内訳	国立	6	3	3	2	4
		公立	1				
		私立	1	3	2	1	1
	就職者数	14 (1) 64% (100%)	18 (1) 67% (100%)	16 73%	21 (3) 88% (100%)	18 (2) 75% (67%)	
その他		3	1		1 (1)		

※( )は、女子学生内数

※その他は、進学予定者、各種学校及び研究生等で当該年度末時点の数



## 【中期計画】

### ④学生相談室機能を強化する。

## 【年度計画・活動内容】

### メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会の実施

#### 平成21年度

##### メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会の実施

【活動内容】学生相談室に3名のカウンセラーを配置し、常に学生の相談に応じられる体制とした。必要に応じて直接カウンセラーに尋ねることも可能。本年度より教職員に対して学生指導だけではなく、個別相談もお願いした。1～3年生のLHRにてカウンセラー講話を実施した（1年生「ストレスと上手につきあう方法」、2・3年生「よい人間関係を築くコツ」）。1年生に性教育の一環として特別講演「性と命について」を行った。全学生に生活習慣調査を行った。生活面とメンタルな部分の調査を実施した。1部のクラスには30分程度のハラスメントの講演を行った。教職員対象のセクシュアルハラスメントの講演を行った。発達障害学生の支援に関する研修への参加及び他高専の視察を行った。発達障害学生の保護者との懇談を行った。教職員対象の発達障害学生への対応についての講演を行った。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生相談室に3名のカウンセラーの他に特別支援教育コーディネーターを配置する。

【活動内容】今年度1名（発達障害専門）増員し、4名のカウンセラー体制とし、また、学生相談室の室員も増員し、室員4名で学生支援を行った。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

カウンセラー講話及び学生、教職員対象の講演を実施する。

【活動内容】1年生対象の「ストレスと上手につき合う法」（6月2日開催）、2年生対象の「友人関係」（10月27日開催）、3年生対象の「自分の事、好きですか」（7月7日開催）、教職員対象のセクハラ講演会「学生間のデートDVについて（約60名の参加）」を実施した。

#### 平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

1年生又は2年生のLHRでハラスメントの講演を行う。

【活動内容】2年生のクラス単位のワークショップ形式により、セクハラ防止講演会を12月8日（2M）、6月16日（2E）、10月6日（2C）、6月30日（2A）に実施した。

#### 平成23年度：実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

発達障害学生へのケアを充実させる。そのために、特別支援教育コーディネーターの勤務時間数の増加、発達障害学生向けのスペシャルサポートルームの整備をはかる。

【活動内容】特別支援コーディネーターの相談及び特別支援が必要な学生に対するケアについて、体制が整った。スペシャルサポートルームについて、ハードウェアは整ったが、運用については細かな課題が残った。この点について、次年度検討することとした。

平成23年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

カウンセラー講話、学生及び教職員対象の講演を実施する。特に予防的観点から、学生の状態を調査し、状態にあわせたテーマを設定する。

【活動内容】学生対象のカウンセラー講話を実施した。教職員対象の講演は、QU（「楽しい学校生活を送るためのアンケート」）テストについての講演をFDの一環として実施した。特にQUについては、次年度の導入教育に役立てることになり、当初の予定以上に広がりを見せた。

平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

緊急時の対応を強化するため、緊急時の学生支援マニュアルを整備する。

【活動内容】相談室が実施するサポート体制のマニュアル化は完了。

平成24年度：実施結果 II「十分には実施していない。」

特別支援コーディネーターの相談体制を充実させる。また、発達障害学生やメンタル面で支援が必要な学生に対してスペシャルサポートルームを機能させ、支援体制を強化する。

【活動内容】スペシャルサポートルームの管理体制が決まり、再雇用教員を配置して相談体制を整備した。次年度以降は、「相談を受ける相談室」から「予防する相談室」へとコンセプトを変更するとともに、一環の事業として実施していく。

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

カウンセラー講話、学生及び教職員対象の講演を実施する。特に予防的観点から、学生の状態を調査し、状態にあわせたテーマを設定する。

【活動内容】学生を対象にしたカウンセラー講話を6月に、教職員を対象とした講演会を1月に実施した。研修会に参加することにより、セクハラに関する教材を入手でき、これまで外注していた講演会等を学校内のスタッフで実施できるようになった。

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

発達障害学生やメンタル面で支援が必要な学生に対してスペシャルサポートルームを機能させ、支援する。カウンセラー講話、学生及び教職員対象の講演を実施する。特に予防的観点から、学生の状態を調査し、状態にあわせたテーマを設定する。

【活動内容】学生向けカウンセラー講話及び教員向け講演会を実施した。機構本部より指示のあった自殺予防の取り組みの一環であるアンケートを実施し、事後対策を行った。第2回中国地区高専学生相談室長会議を本校主幹で開催し意見交換等を行った。

メンタルヘルス等に関する講習会実施状況(H21～H25)

年度	講習会名称	実施年月日					実施 日数	講習会の内容を具体的に記載して下さい。	講習会全体の参加者数					
		年	月	日	～	年			月	日	高専 教員	高専 職員	高専 学生	合計
H21	就職準備セミナーⅠ	21	6	3	～	21	6	3	1	就職活動に向けてのスケジュールの確認、自己分析、情報収集と会社選びなどの講習会を行った。	1	1	60	62
	カウンセラー講話（1年）	21	6	3	～	21	6	3	1	ストレスと上手につきあう方法について	5	1	172	178
	カウンセラー講話（3年）	21	7	8	～	21	7	8	1	良い人間関係を築くコツについて	5	1	159	165
	編入学試験対策セミナーⅠ	21	8	7	～	21	8	7	1	数学・英語の勉強方法について講習会を行った。	3	1	70	74
	編入学試験対策セミナーⅡ	21	11	4	～	21	11	4	1	5年生による体験談を聞いた。	1	1	30	32
	カウンセラー講話（2年）	21	11	4	～	21	11	4	1	良い人間関係を築くコツについて	5	1	178	184
	ハラスメントへの対応について	21	11	12	～	21	11	12	1	ハラスメント防止のために教職員対象に本校カウンセラーから話を伺い、質問に答えてもらった。	7	1		8
	就職準備セミナーⅡ	21	12	14	～	21	12	14	1	エントリーシート・履歴書の書き方、筆記試験対策の講習会を行った。	1	1	65	67
	就職準備セミナーⅢ	22	1	20	～	22	1	20	1	面接対応、ビジネスマナー、一般的マナーの講習会を行った。	3	1	85	89
特別講演（1年）	22	1	27	～	22	1	27	1	性と命について、助産師からのメッセージという内容で講演。感想文を書いてもらい集計した。	5	1	172	178	
発達障害学生支援に関する講習会	22	3	4	～	22	3	4	1	発達障害をもつ学生の支援方法	12	2		14	
合計								11		48	12	991	1051	
H22	就職準備セミナーⅠ	22	6	2	～	22	6	2	1	就職活動に向けてのスケジュールの確認、自己分析、情報収集と会社選びなどの講習会を行った。	1	1	60	62
	カウンセラー講話（1年）	22	6	2	～	22	6	2	1	ストレスと上手につきあう方法について	5	1	173	179
	ハラスメント講習会	22	6	16	～	22	6	16	1	デートDVIについて、学生対象に講習会を行った。	4	1	43	48
	ハラスメント講習会	22	6	30	～	22	6	30	1	デートDVIについて、学生対象に講習会を行った。	4	1	43	48
	カウンセラー講話（3年）	22	7	7	～	22	7	7	1	自分のこと、好きですか？—自己肯定感の大切さ—	5	1	175	181
	編入学試験対策セミナーⅠ	22	7	21	～	22	7	21	1	数学・英語の勉強方法について講習会を行った。	3	1	60	64
	ハラスメント講習会	22	10	6	～	22	10	6	1	デートDVIについて、学生対象に講習会を行った。	4	1	47	52
	編入学試験対策セミナーⅡ	22	10	20	～	22	10	20	1	5年生による体験談を聞いた。	1	1	30	32
	カウンセラー講話（2年）	22	10	27	～	22	10	23	1	良い人間関係を築くコツについて	6	1	178	185
	ハラスメント講習会	22	12	8	～	22	12	8	1	デートDVIについて、学生対象に講習会を行った。	4	1	45	50
就職準備セミナーⅡ	23	1	19	～	23	1	19	1	エントリーシート・履歴書の書き方、筆記試験対策の講習会を行った。	1	1	62	64	
特別講演（1年）	23	1	26	～	23	1	26	1	性と命について、助産師からのメッセージという内容で講演。感想文を書いてもらい集計した。	5	1	172	178	
発達障害学生支援に関する講習会	23	3	11	～	23	3	11	1	思春期後期における発達障害学生の指導	37	3		40	
合計								13		80	15	1088	1183	
H23	カウンセラー講話(1年2学科)	23	6	1	～	23	6	1	1	心のトラブルとの付き合い方	2	1	86	89
	ハラスメント防止講習会(1年2学科)	23	6	1	～	23	6	1	1	ハラスメントの定義、例、ハラスメント防止の心得について	5	1	81	87
	カウンセラー講話(1年2学科)	23	6	8	～	23	6	8	1	心のトラブルとの付き合い方	2	1	81	84
	ハラスメント防止講習会(1年2学科)	23	6	8	～	23	6	8	1	ハラスメントの定義、例、ハラスメント防止の心得について	5	1	86	92
	カウンセラー講話（1年）	23	6	15	～	23	6	15	1	自分も相手も大切にしている関係作りについて	5	1	168	174
	ハラスメント講習会(2年)	23	6	15	～	23	6	15	1	デートDVIについて	2	1	42	45
	ハラスメント講習会(2年)	23	6	22	～	23	6	22	1	デートDVIについて	2	1	39	42
	ハラスメント講習会(2年)	23	6	29	～	23	6	29	1	デートDVIについて	2	1	44	47
	就職準備セミナーⅠ	23	6	29	～	23	6	29	1	就職活動に向けてのスケジュールの確認、自己分析、情報収集と会社選びなどの講習会を行った。	1	1	60	62
	編入学試験対策セミナーⅠ	23	7	13	～	23	7	13	1	数学・英語の勉強方法について講習会を行った。	3	1	50	54
	ハラスメント講習会(2年)	23	10	5	～	23	10	5	1	デートDVIについて	2	1	42	45
	編入学試験対策セミナーⅡ	23	10	19	～	23	10	19	1	5年生による体験談を聞いた。	1	1	20	22
	カウンセラー講話(3年)	23	7	6	～	23	7	6	1	世の中の仕組みとどう付き合っていくか	5	1	160	166
メンタルヘルス講習会	23	7	27	～	23	7	27	1	メンタルヘルスについて、教職員の理解を深める	25	10		35	
就職準備セミナーⅡ	24	1	18	～	24	1	18	1	エントリーシート・履歴書の書き方、筆記試験対策の講習会を行った。	1	1	50	52	
合計								15		63	24	1009	1096	
H24	編入学試験対策セミナーⅠ	24	5	2	～	24	5	2	1	数学・英語の勉強方法について講習会を行った。	3	1	50	54
	カウンセラー講話(1年2学科)	24	6	6	～	24	6	6	1	心のトラブルとの付き合い方	2	1	87	90
	カウンセラー講話(1年2学科)	24	6	13	～	24	6	13	1	心のトラブルとの付き合い方	2	1	86	89
	カウンセラー講話(3年)	24	7	11	～	24	7	11	1	世の中の仕組みとどう付き合っていくか	5	1	190	196
	就職準備セミナーⅠ	24	7	11	～	24	7	11	1	就職活動に向けてのスケジュールの確認、自己分析、情報収集と会社選びなどの講習会を行った。	1	1	60	62
	メンタルヘルス講習会	24	8	1	～	24	8	1	1	対人関係の理解と制御(教職員対象)	25	10		35
	カウンセラー研修会	24	10	18	～	24	10	18	1	呉高専における学生相談について(新任教員対象)	6	1		7
	編入学試験対策セミナーⅡ	24	10	31	～	24	10	31	1	5年生による体験談を聞いた。	1	1	20	22
	コミュニケーションスキル講話	24	12	19	～	24	12	19	1	対人関係(読み取りスキル)のワークショップ	2		45	47
	就職準備セミナーⅡ	24	12	7	～	24	12	7	1	エントリーシート・履歴書の書き方、筆記試験対策の講習会を行った。	1	1	50	52
就職準備セミナーⅢ	25	1	23	～	25	1	23	1	身だしなみセミナー、スーツの選び方、基本的なビジネスマナー	1	1	60	62	
合計								11		49	19	648	716	
H25	就職準備セミナーⅠ	25	4	23	～	25	4	23	1	就職活動に向けてのスケジュールの確認、自己分析、情報収集と会社選びなどの講習会を行った。	1	1	60	62
	編入学試験対策セミナーⅠ	25	5	7	～	25	5	7	1	数学・英語の勉強方法について講習会を行った。	3	1	50	54
	カウンセラー講話(1年2学科)	25	5	8	～	25	5	8	1	心のトラブルとの付き合い方	4	2	85	91
	カウンセラー講話(1年2学科)	25	5	15	～	25	5	15	1	心のトラブルとの付き合い方	4	1	91	96
	カウンセラー講話(3年)	25	7	17	～	25	7	17	1	世の中の仕組みとどう付き合っていくか	6	2	164	172
	メンタルヘルス講習会	25	8	2	～	25	8	2	1	青年期にありがちな心の病気についての解説と質疑応答(教職員対象)	25	10		35
	カウンセラー研修会	25	10	17	～	25	10	17	1	呉高専における学生相談について(新任教員対象)	5			5
	編入学試験対策セミナーⅡ	25	10	30	～	25	10	30	1	5年生による体験談を聞いた。	1	1	20	22
	特別講演	25	11	22	～	25	11	22	1	青年期の自殺予防	42	13		55
	就職準備セミナーⅡ	25	12	18	～	25	12	18	1	エントリーシート・履歴書の書き方、筆記試験対策の講習会を行った。	1	1	50	52
就職準備セミナーⅢ	26	1	22	～	26	1	22	1	身だしなみセミナー、スーツの選び方、基本的なビジネスマナー	1	1	60	62	
FD研修会	26	2	22	～	26	2	22	1	発達障害への対応	36	20		56	
合計								12		129	53	580	762	

## (6) 教育環境の整備・活用

### 【中期計画】

①学生のアイデアを取り入れた、心地よい環境配慮型キャンパスの実現を志向する。

### 【年度計画・活動内容】

教育環境に関する学生評価アンケート調査の実施

平成21年度

教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。

【活動内容】学生に対して、平成20年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施した。

平成22年2月に平成21年度分を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生に対して、平成22年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。

【活動内容】2月に平成22年度教育環境に関する学生評価アンケートを実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生に対して、平成23年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。

【活動内容】2月に平成23年度教育環境に関する学生アンケートを実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生に対して、平成24年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。

【活動内容】2月に平成24年度教育環境に関する学生アンケートを実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生に対して、平成25年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。

【活動内容】2月に平成25年度教育環境に関する学生アンケートを実施した。

### 【中期計画】

②教育改善計画に沿って、教育設備の拡充・整備を行う。

### 【年度計画・活動内容】

施設の有効利用、整備・拡充のマネジメントの実施(H23~H24)

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

施設、実験・実習設備等の老朽化等の状況を調査・確認し、メンテナンスを実施するとともに、教育環境に関する学生評価アンケート調査等も踏まえ、施設管理に係るコストを勘案した将来計画及びマスタープランを策定し、それに基づいた改善整備を推進する。

【活動内容】施設、実験・実習設備等の老朽化等の状況を調査・確認し、メンテナンスを実施した。また、教育環境に関する学生評価アンケート調査等も踏まえ、施設管理に係るコストを勘案した将来計画及びマスタープランの策定に向けて検討中であり、併せて将来計画等に基づいた改善整備も推進中である。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育環境に関する学生評価アンケート調査等も踏まえ、施設の改善整備を検討する。

【活動内容】普通教室棟2階の談話室及び図書館棟1階のテクノショップオフィスをゼミ室として運用を開始した。普通教室棟1階の談話室を平成25年度の再雇用教員室として整備した。

【年度計画・活動内容】

安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の拡充を実施(H23~H25)

平成23年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備を推進する。また、改正省エネ法等の趣旨を踏まえ、施設・設備の省エネ化対策方針を策定する。

【活動内容】施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備を推進した。また、施設・設備の省エネ化対策方針を策定しながら一部を整備した。本年度内に、排水施設の全面改修を完成するとともに校内歩道・道路を改修整備した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備及び省エネ化対策を推進する。

【活動内容】各棟の屋外階段（機械工学科棟西側、電気情報工学科棟西側、環境都市工学科棟東側、建築学科棟西側、普通教室棟東側・西側、第二普通教室棟西側）を平成25年3月に改修した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。

【活動内容】施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、建築学科協力のもと施設・整備におけるマスタープランの原案を策定した。学寮地区に関しては、施設計画WGを立ち上げ、学寮、福利施設等の改修計画を策定した。

【年度計画・活動内容】

学生を対象とする安全管理講習会

平成21年度

学生を対象とする安全管理講習会

【活動内容】本科3年生を対象に、運転免許証の取得及び単車通学における注意事項を指導し、DVD教材又は外部講師による交通安全指導を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本年度の活動を継続するとともに、学生の交通安全の意識を高めるため、対象学年及び通学の交通手段に応じた交通安全指導を行う。

【活動内容】H23年2月2日、交通安全の大切さを学ぶこと目的として、外部講師による交通安全講習会を開催し、約170名の学生が参加した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

昨年度に引き続き、H24年2月1日に外部講師による交通安全講習会を開催し、交通安全に対する学生の意識を高めるように指導する。

【活動内容】H23年度のバイク通学は本科6名、専攻科2名、車通学は専攻科生7名を許可した。H24年2月1日の6時間目3年生合同HRにおいて、外部講師による交通安全講習会を開催し、自転車に関する最新の法令も含めて指導した。

平成24年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

昨年度に引き続き、H24年2月1日に外部講師による交通安全講習会を開催し、交通安全に対する学生の意識を高めるように指導する。

【活動内容】2月に3年生合同LHRにおいて、交通安全講習を実施し、併せてバイク通学学生を対象に交通安全教室を実施した。学生会による自転車登録制度を後期から開始した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

昨年度に引き続き、外部講師による交通安全講習会を開催し、交通安全に対する学生の意識を高めるように指導する。

【活動内容】交通安全講習会（5/10、2/27）を実施した。3年生の合同ホームルームにて、民間外部講師を招き、交通安全指導（2/5）を実施した。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 教職員を対象とする安全管理講習会

平成21年度

教職員を対象とする安全管理講習会

【活動内容】今年度は、産業医を講師として、衛生管理に関する講習会を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

安全衛生委員会の主催による安全管理又は衛生に関する講習会を開催する。

【活動内容】11月10日に学外講師（中央労働災害防止協会）による安全に関する講習会を実施し、27名の教職員が参加した。

平成23年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

安全衛生委員会の主催による「衛生に関する講習会」及び「AED講習会」を実施する。

【活動内容】10月5日に安全衛生委員会の主催による「衛生に関する講習会」を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

安全衛生委員会の主催による「安全に関する講習会」及び「AED講習会」を実施する。

【活動内容】11月14日、共立インシュアランス・ブローカーズ(株)から講師を招へいし、「安全に関する講習会」を実施した。また、講習会に先立ち、2日間にわたって当該講師他1名(エンジニア)による校内防災点検を実施した。AED講習会は実施しなかった。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

安全衛生委員会の主催による「安全に関する講習会」及び「AED講習会」を実施する。

【活動内容】外部講師による「教職員のメンタルヘルス」と題した講演を行い、延べ29名の教職員が参加し、教職員のメンタルヘルス対策について意見交換を行った(1/29)。AED講習会は実施しなかった。

#### 【中期計画】

③図書館棟を「教育センター」として、教育支援機能を充実する。

#### 【年度計画・活動内容】

教育支援スペースの確保(H22-H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。

【活動内容】作業環境を整備し、支援活動を行えるようにした。次年度は、機能的な充実を図る。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。

【活動内容】教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)2階に設け、e-ラーニングの教材作成などの支援を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。

【活動内容】教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)2階に設け、e-ラーニングの教材作成などの支援を行った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教材作成などが行なえるスペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。

【活動内容】教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)2階に設け、e-ラーニングの教材作成、授業アンケートの作成と集計、SAPARの事務作業などの支援を行った。

【中期計画】

④「総合教育技術室」を「技術センター」として再編し、ものづくり教育支援及び研究支援機能を強化する。

【年度計画・活動内容】

技術センターの整備(H22)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

技術センターの新体制への実質移行のための検討を継続して行う。

【活動内容】次年度からの技術センターの新体制への実質移行に向けて、技術センターの規則を改正した。技術センター執務室整備の移行措置として、教育センターEWS室を改修した。

【中期計画】

⑤技術センター協力員等として、退職技術者等の企業人材を活用する。

【年度計画・活動内容】

企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用

平成21年度

企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用

【活動内容】企業技術者等活用プログラムを活用して、企業人材及び退職技術者を非常勤講師として雇用した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

企業技術者等による工作実習の技術指導を継続する。

【活動内容】昨年度に引き続き、企業人材を講師として、技術職員の研修を実施した（5つのテーマで、計180時間の予定）。退職技術者等2名が非常勤職員として、工作実習（4クラス）の技術指導をした。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

昨年度に引き続き、企業人材を講師として、技術職員の研修を実施していく。

【活動内容】昨年度に引き続き、企業人材等を講師として、4つのテーマについて、技術職員の研修を実施した。（実習系技術職員対象：30時間、電気情報系技術職員対象：24時間、環境都市系技術職員対象：30時間、建築系技術職員対象：30時間）

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

予算がつけば、昨年度に引き続き、企業人材を講師として、技術職員の研修を実施していく。

【活動内容】平成24年6月26日～3日間安全衛生マネジメント研修会を実施。平成25年2月12日～6h×4回「木工機械の取扱い研修」を実施。平成25年3月4日～6h×5回「C言語プログラミング研修」を実施。

平成25年度：実施結果 I「実施していない。」

昨年度に引き続き、企業人材を講師として招聘し、技術職員の研修を予算の範囲内で実施する。

【活動内容】実施していない。

【中期計画】

⑥新センター群及び新形態の教育を実施するため、建物の改修及び室機能の再配置を推進する。

【年度計画・活動内容】

教育センター・技術センターの機能充実(H22-H25)

平成22年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

教育センター棟の改修整備を実施する。技術センターに関しては部屋機能の再配置を検討する。

【活動内容】教育センターに関しては、年度計画に沿って整備を実施する予定である。技術センターに関しては、検討委員会を開催し、議論を継続している。

平成23年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

教育センター棟の改修も含めた整備計画を検討する。

【活動内容】教育センターの整備・改修について検討を開始した。整備の一つとして、教育センターに再雇用教員のためのスペースを確保するための整備を始めた。

平成23年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

技術センターにおける部屋機能の再配置を検討する。

【活動内容】技術センターの整備について、将来計画に沿った「ものづくり教育」に適した環境整備への検討を開始した。

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

教育センター棟の改修も含めた整備計画を検討する。

【活動内容】図書館1階ホール改修（改修内容：床シート張り替え、照明改修、簡易間仕切りの設置）を行った。教育センター棟玄関に展示用のショールームを設置することを検討した。

平成24年度：実施結果 II「十分に実施していない。」

技術センターにおける部屋機能の再配置を検討する。

【活動内容】「第二実習工場」の新設を念頭に、検討中である。

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

将来計画に沿った教育センター及び技術センターの整備・改修を検討する。

【活動内容】展示用のショールームを設置した。「第二実習工場」については、ものづくり工房とともに、次年度以降にマスタープランの原案を策定し、関係機関と協議を行いながら教育センター等の整備案の中で検討することとした。

呉工業高等専門学校  
第2期中期目標期間 中期計画・年度計画

- I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

2 研究に関する事項

## 2 研究に関する事項

### 【中期計画】

①副校長（総務企画）のもとで、科学研究費補助金獲得の支援を行うとともに、研究力強化に資する競争的資金公募事業へ計画的に応募する。

### 【年度計画・活動内容】

#### 科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスの実施

平成21年度

科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスの実施

【活動内容】10月7日に科学研究費補助金説明会を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

科学研究費補助金説明会を実施する。

【活動内容】10月6日に科研費説明会を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

科学研究費補助金説明会を実施する。

【活動内容】10月5日に科研費補助金説明会を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

科学研究費補助金説明会を実施する。

【活動内容】9月19日及び10月3日に科研費補助金説明会を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

科学研究費補助金説明会を実施する。

【活動内容】7月10日に科学研究費補助金説明会を実施した。

### 【年度計画・活動内容】

#### 研究活動の点検

平成21年度

研究活動を点検する。

【活動内容】教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検した。

「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成20年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認した

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。

【活動内容】教員の研究活動内容に係る自己点検については、4月～5月にかけて実施し、その結果を教育研究基盤校費に反映させた。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成21年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認する。

【活動内容】研究業績に関するデータを学内研究報告書巻末に掲載し、1月末に配布した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。

【活動内容】教員の研究活動内容に係わる自己点検については、4月～5月にかけて実施し、その結果を教育研究基盤校費に反映させた。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成22年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認する。

【活動内容】教員の研究活動業績に関するデータを、4月～5月にかけて調査し、その結果を10月に学内研究報告書巻末に掲載した《電子版：本校HPに掲載》。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。

【活動内容】教員の研究活動内容に係わる自己点検については、4月～5月にかけて実施し、その結果を教育研究基盤校費に反映させた。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成23年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認する。

【活動内容】教員の研究活動業績に関するデータを、4月～5月にかけて調査し、その結果を学内研究報告書巻末に掲載した。

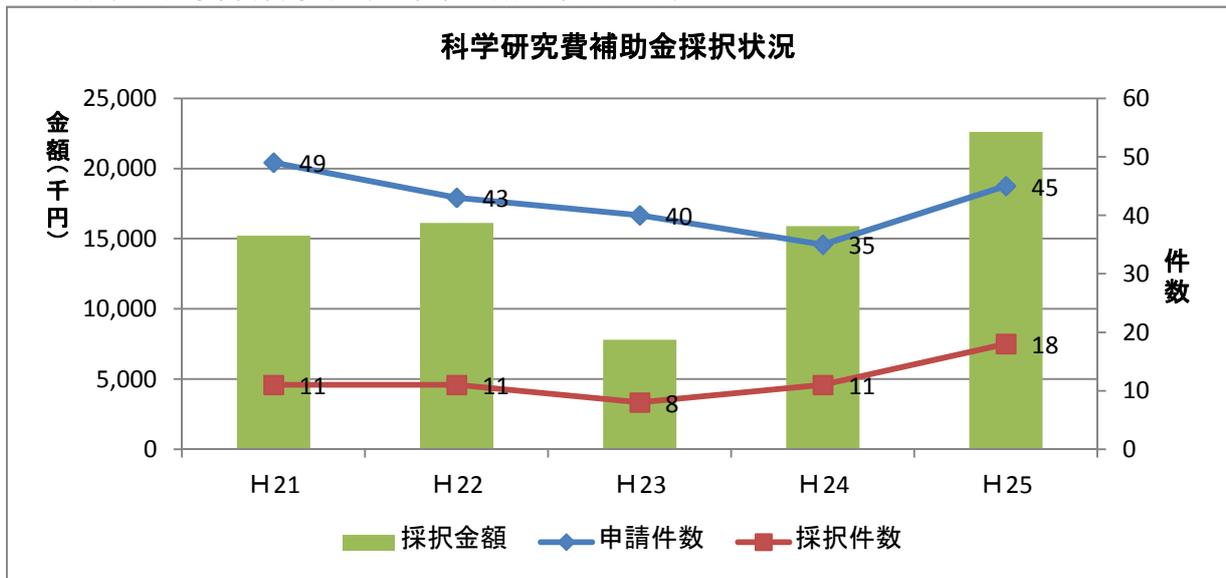
平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成24年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認する。

【活動内容】教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検した。また、「呉高専研究報告」を発刊し、平成24年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認した。

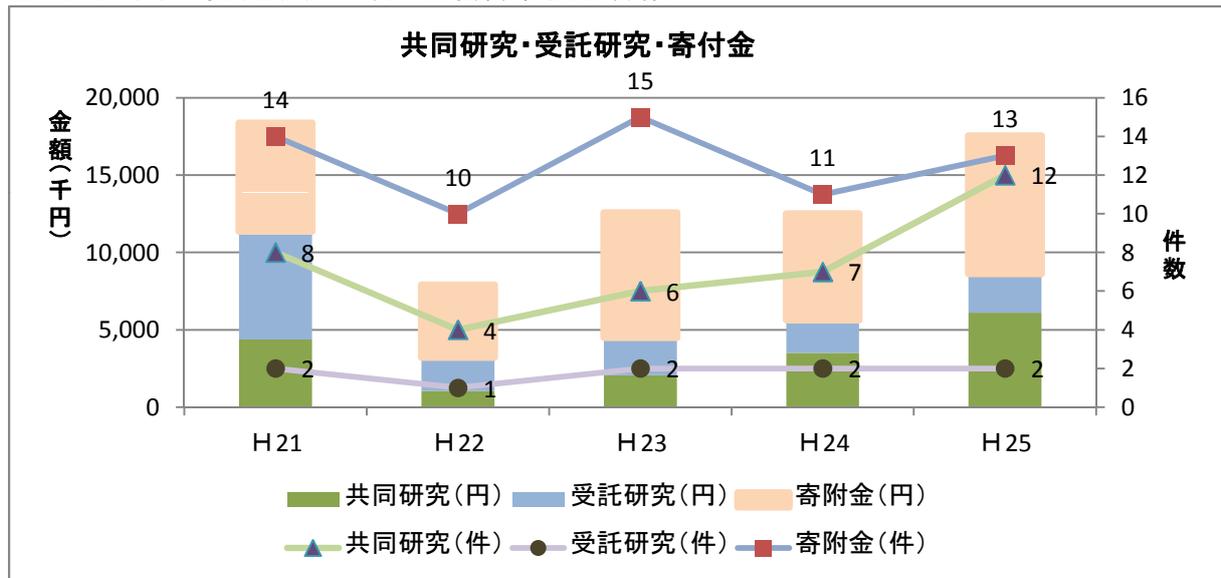
科学研究費等獲得等及び技術相談の状況(H21～H25)

○ 科学研究費獲得状況(金額、申請率、採択率)



※申請件数、採択件数、採択金額には、継続分を含む

○ 共同研究・受託研究・寄付金獲得額及び件数



○ 企業からの技術相談

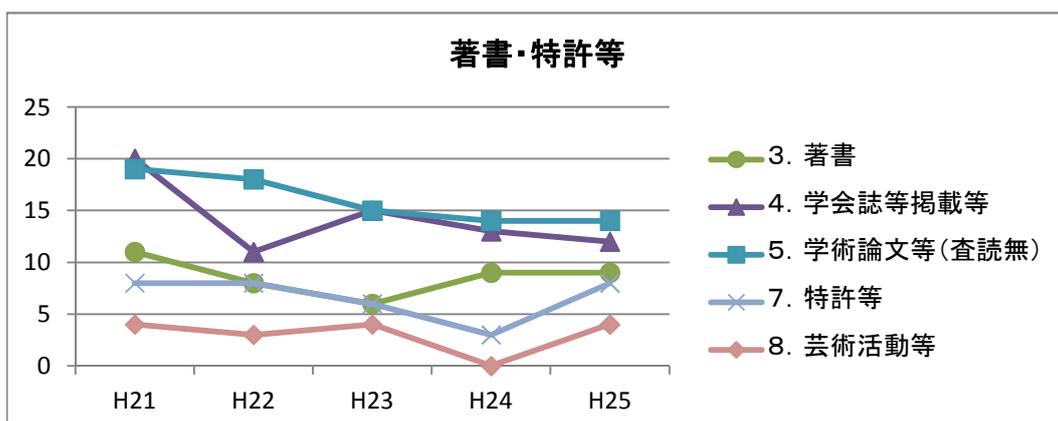
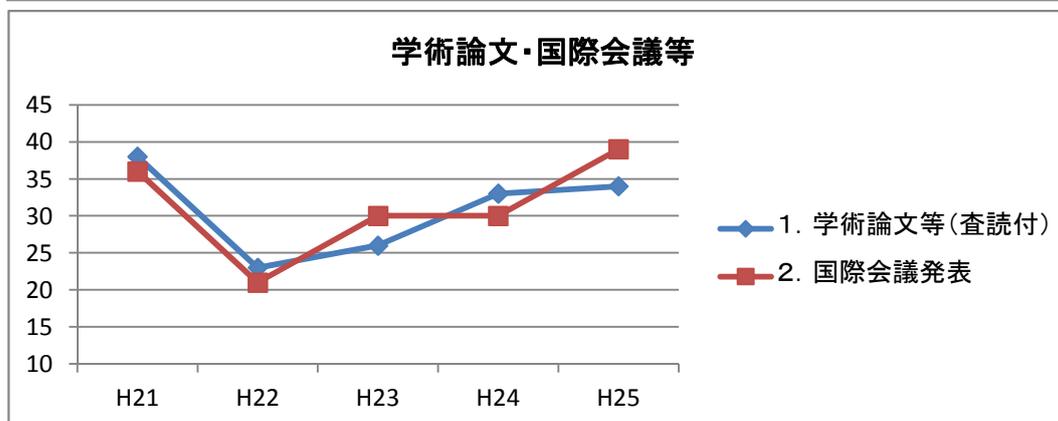
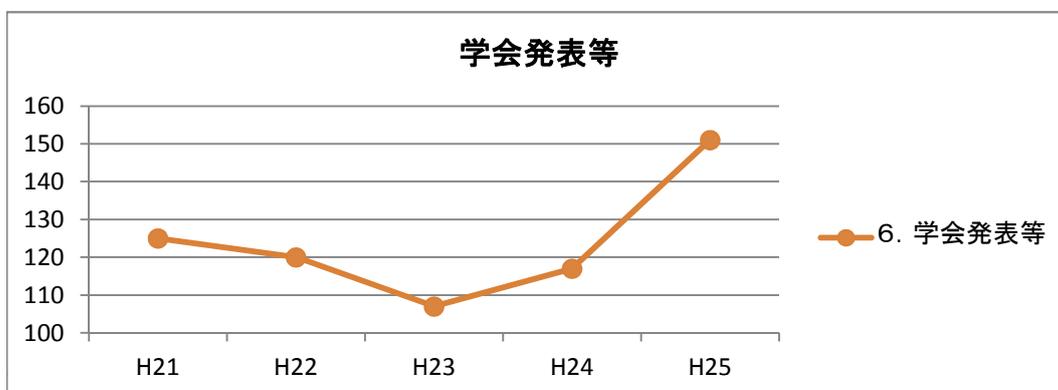
年度	技術相談 件数	うち技術相談から 共同研究に発展した事例		うち技術相談から 受託研究に発展した事例	
		件数	金額	件数	金額
平成21年度	30件	1件	315,000		
平成22年度	35件				
平成23年度	44件	2件	2,200,000		
平成24年度	45件				
平成25年度	83件	3件	2,750,000	1件	190,000

## 研究活動等の状況

### ○ 業績状況等

		H21	H22	H23	H24	H25
1	学会誌、協会誌等掲載学術論文(査読付)	38	23	26	33	34
2	国際会議発表*	36	21	30	30	39
3	著書	11	8	6	9	9
4	学会誌、協会誌等掲載記事(総説、解説、技術資料等)、報告書	20	11	15	13	12
5	研究報告等掲載学術論文(査読なし)	19	18	15	14	14
6	学会発表、シンポジウム発	125	120	107	117	151
7	特許等	8	8	6	3	8
8	芸術活動、建築作品、フィールドワーク	4	3	4	0	4
	合計	261	212	209	219	271

\*はProceeding発表, Symposium発表, Poster Session発表を含む



## 【中期計画】

### ②教員・学生に対する知的財産教育を推進する。

## 【年度計画・活動内容】

### 学内知財教育の推進

平成21年度

#### 知財教育の推進

【活動内容】学生を対象とした中国経済産業局主催による知的財産権セミナー「知的財産総合基礎セミナー」、「パテントマップ作成セミナー」を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生を対象とした中国経済産業局主催による知的財産権セミナー「知的財産総合基礎セミナー」、「パテントマップ作成セミナー」を実施する。

【活動内容】学内及び地域企業技術者を対象とした「知的財産総合基礎セミナー」、「パテントマップ作成セミナー」を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生及び地域企業技術者を対象とした知的財産権セミナーを実施する。具体的には「知的財産総合基礎」、「意匠」、「パテントマップを活用した特許戦略」等を計画する。

【活動内容】FD研修の一環として「知財セミナー」を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

学生及び地域企業技術者を対象とした知的財産権セミナーを実施する。

【活動内容】学内教職員・学生、地域企業人材を対象として、「IPDL 検索演習」、「パテントマップ演習」を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学生及び地域企業技術者を対象とした知的財産権セミナーを実施する。

【活動内容】機構知財担当 CD 及び特許庁意匠課意匠制度企画室長による知財セミナーを2件実施した。後者のセミナーは地域人材へも開放した。

## 【年度計画・活動内容】

### 特許出願の推進

平成21年度

#### 特許出願の推進

【活動内容】審査請求を1件行った。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

学内における特許出願マニュアルの構築を検討する。

【活動内容】時間的制約などがあり、十分に検討できていない。次年度以降の対応としたい。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学内における特許出願マニュアルの構築を検討する。

【活動内容】知財担当特命教授とともに、大方のガイドラインを作成した。現在これを精査中で、次年度学内公表予定である。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

特許出願マニュアルを作成する。

【活動内容】マニュアルの草案を作成したが、発明届の件数が極めて少ないことから、本マニュアルの意義を次年度に検討することとした。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

特許出願マニュアルを基にした学内FD講演会を実施する。

【活動内容】研究指針時の特許出願にかかるフローについてマニュアルを整備し、教員会で説明した。出願に関しては個別に対応・指導した。年間行事枠の関係でFD講演会は実施できなかったが、教員会にて「知財出願までの流れ」、「外部との協働研究開始及び関連する契約」、「外部からの試作依頼あるいは本校の情報提供依頼に関する契約」に関してフローチャート化した特許出願マニュアルを公表するとともに教職員に周知徹底した。

#### 【中期計画】

③研究成果を社会に積極的に発信する。

#### 【年度計画・活動内容】

全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等での研究成果の発信

平成21年度

全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等での研究成果の発信

【活動内容】中国地区高専テクノマーケット及び全国高専テクノフォーラムにポスターを出展した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本校シーズ発信に関する広報活動の在り方を検討する。

【活動内容】コーディネータとともに、広島県内30社以上の企業・諸関係機関を訪問し、広報活動を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本校シーズ発信に関する広報活動の在り方を検討しつつ、各種シーズ発表会に積極的に参加する。

【活動内容】広島 IT エキスポ、電子情報通信学会マイクロウェーブ展などの各種展示会において、本校のシーズを発信した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

各種展示会に出展等を行い、本校シーズを発信する。

【活動内容】中国地区テクノフェア、電子情報通信学会展示会において、本校のシーズを発信した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

各種展示会に出展等を行い、本校シーズを発信する。

【活動内容】研究室訪問第1弾を実施し91名の参加者があり、第2弾の実施では20名の参加者があった。イノベーションジャパン、ひろしま IT 展、マイクロウェーブ展において、本校のシーズを発信した。

#### 【年度計画・活動内容】

研究成果を発表する各種機会への出展、技術マッチングシステム、産学官連携コーディネータ等を活用した共同研究・受託研究の促進

平成21年度

研究成果を発表する各種機会への出展、技術マッチングシステム、産学官連携コーディネータ等を活用した共同研究・受託研究の促進

【活動内容】各教員による「技術マッチングシステム」への登録・更新を行った。コーディネータによる卒業研究・共同研究・技術相談への助言・指導並びにひろしま産振構、中国経産局、呉信用金庫、くれ産業振興センター、広島大学関係部門、JST プラザ広島及び東広島コラボスクエア等への訪問を実施した。7件の共同研究及び2件の受託研究を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本校シーズ発信に関する広報活動の在り方を検討する。融合・複合を考慮したシーズ集の検討を開始する。

【活動内容】広島県内30社以上の企業・諸関係機関を訪問し、広報活動を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域企業訪問を通して県内企業のニーズを調査し、本校シーズとのマッチングをはかる。

【活動内容】県内にある数十社の企業を訪問し、広報活動を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

研究分野キーワードに着目し、融合・複合を考慮したシーズ集の検討を開始する。

【活動内容】教員から提出されたシーズ内容が少ないため、共通のキーワード毎の整理が充分にできなかった。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

県内企業のニーズを調査し、本校シーズとのマッチングを検討する。

【活動内容】 県内諸機関を訪問し、企業訪問ではニーズの調査、教育委員会訪問では教育連携、公官庁訪問では県、市レベルでの将来計画などが把握できた。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

研究分野キーワードに着目したシーズ集を作成する。

【活動内容】 キーワード調査を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

産学連携コーディネータ等とともに県内企業のニーズを調査し、本校シーズとのマッチングを検討する。

【活動内容】 県内企業80社を訪問し、ニーズ調査を行った。その結果として、以下の事項で本校シーズに関するマッチングを検討した。

県内企業と本校「3Dプリンタ応用開発研究室」との連携。

公設試験場との植物工場に関する技術開発。

県内食品メーカーとの環境水質処理に関する検討。

県内車両メーカーとの機構的・電気的性能向上に関する共同研究

#### 【年度計画・活動内容】

##### 技術移転の推進

平成21年度

技術移転の推進

【活動内容】 1件の技術移転に向けた技術説明会を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

学内における特許出願マニュアルの構築を検討する。

【活動内容】 時間的制約などがあり、十分に検討できなかった。次年度も引き続き検討することとした。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学内シーズの技術移転を念頭においた、学内における特許出願マニュアルの構築を検討する。

【活動内容】 知財担当特命教授とともに、大方のガイドラインを作成した。次年度学内公表予定である。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学内シーズの技術移転を念頭においた、学内における特許出願マニュアルを作成する。

【活動内容】 マニュアルの草案を作成したが、発明届の件数が極めて少ないことから、本マニュアルの意義を次年度に検討することとした。

平成25年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

技術移転が可能な成果を有する教員を調査し、それらの教員を支援する方法を企画立案する。

【活動内容】技術移転が可能な成果を有する教員を支援するための企業見学、企業訪問、企業人材との意見交換会を以下のように実施した。

マツダ（株）を訪問し研究テーマの検討を行った。

前期・後期と(株)ディスコを訪問した。次年度以降も県内訪問事業を計画することとした。

企業人材を本校に招き、特定の教員によるシーズ発信を3回実施した。

年1回開催される広島県西部工業技術センターイベントに参加し、パネル発表を行った。

呉工業高等専門学校  
第2期中期目標期間 中期計画・年度計画

- I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

### 3. 社会との連携、国際交流等に関する事項

#### 【中期計画】

①教員間及び大学・企業技術者との協働を促す。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 協働研究センター等の施設や設備の充実

平成21年度

協働研究センター等の施設や設備の充実

【活動内容】「高度化先端設備要求」、「更新設備要求」等を通して、微生物分子機能解析システムやナノインデンテーション付き走査プローブ顕微鏡システムなどを導入した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

積極的に外部資金の導入に努める。

【活動内容】科学研究補助金申請採択等により、昨年を越える外部資金の導入に努めた。科研費は、申請数43件、採択11件であった。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

積極的に外部資金の導入に努める。

【活動内容】継続的に外部資金導入を計画した。科研費は、申請数40件、採択8件であった。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

継続的に外部資金導入に努める。

【活動内容】科研費説明会を9月に、科研申請方法説明会を10月に実施した。科研費は、申請数35件、採択11件であった。また、A-Stepは、申請数3件、採択数1件であった。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

継続的に外部資金導入に努める。

【活動内容】三機関連携のプロジェクト会議に参加して、新しい研究テーマの検討に着手した。次年度外部資金導入に向け、本校として申請可能な補助金の調査を行った。科研費は、申請数45件、採択12件であった。

【中期計画】

②公開講座、研究関連講演会及び他団体企画の本校教員担当公開講座等を計画的に推進する。

【年度計画・活動内容】

公開講座の参加者に対する満足度アンケート調査の実施

平成21年度

公開講座の参加者に対する満足度アンケート調査の実施

【活動内容】15講座実施し、満足度は平均は96%であった。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

教員のモチベーションが高まるような公開講座の実施方法の検討を始める。

【活動内容】時間的制約などがあり、十分に検討できていない。次年度以降の対応としたい。

12講座実施し、満足度は平均は91%であった。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

アンケート様式を統一し、同一基準のもとで公開講座満足度アンケートを実施し、結果の精査を行う。

【活動内容】16講座実施し、満足度は平均は91%であった。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公開講座満足度アンケートを実施し、結果の精査を行う。

【活動内容】18講座実施し、満足度の平均は96%であった。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公開講座満足度アンケートを実施し、結果の精査を行う。

【活動内容】20講座実施し、満足度の平均は95.4%であった。なお、次年度に向け、満足度が平均以下の内容に関しては、担当部署に改善要求を行った。

## 講座等実施状況及び満足度(H21～H25)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
実施講座等数		16 講座	12 講座	16 講座	18 講座	20 講座
内訳						
講座等の開設分野	専門分野(機械系)	4 講座	2 講座	1 講座	1 講座	1 講座
	専門分野(電気・電子系)	6 講座	8 講座	8 講座	8 講座	9 講座
	専門分野(情報系)	1 講座				
	専門分野(建築・環境都市系)	2 講座	1 講座	6 講座	8 講座	7 講座
	一般教養(人文系)	3 講座	1 講座	1 講座	1 講座	3 講座
	その他					
講座の対象者	小・中学生向け	7 講座	10 講座	11 講座	16 講座	13 講座
	小・中学、高校、大学、一般向け	3 講座				1 講座
	小・中学、高校、高専、大学、一般向け	1 講座		3 講座	1 講座	1 講座
	高校、高専、大学、一般向け	4 講座	1 講座	1 講座		
	高専、一般、経験者、技術者・専門家向け	1 講座				
	一般成人向け					3 講座
	技術者・専門家向け					1 講座
目的	小中学生に理科の面白さを伝えることを目的とする	10 講座	10 講座	14 講座	16 講座	15 講座
	社会人向けのリカレント教育を目的としている	6 講座	2 講座	2 講座	2 講座	3 講座
	その他					2 講座
受講者数		304 人	229 人	359 人	398 人	868 人
満足度調査を実施講座数		16 講座	12 講座	15 講座	18 講座	20 講座
有効回答者数(A)		288 人	220 人	339 人	387 人	460 人
左のうち満足回答者数(B)		274 人	203 人	330 人	372 人	439 人
満足度率(B/A)		95.1%	92.3%	97.3%	96.1%	95.4%
満足度率70%以上の講座		15 講座 (93.8%)	11 講座 (91.7%)	14 講座 (87.5%)	17 講座 (94.4%)	20 講座 (100.0%)

【年度計画・活動内容】

小・中学校に対する理科教育支援の機会増大

平成21年度

小・中学校に対する理科教育支援の機会増大

【活動内容】「エジソンスクール」や「ロボット作成」等に代表される、小・中学校生徒を対象とした公開講座を15件実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公開講座や科学教室を実施する。

【活動内容】公開講座を12件実施した他、広島市少年少女発明クラブへの支援を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公開講座、科学教室及び出前授業を企画・実施する。

【活動内容】公開講座を16件、出前授業を4件実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公開講座、科学教室及び出前授業を企画・実施する。

【活動内容】公開講座を18件、大和ミュージアムの連携科学教室を3件、出前授業を7件実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

公開講座、科学教室及び出前授業を企画・実施する。

【活動内容】初めての試みとして、「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施し、100名の参加があり、盛況里に実施することができた。公開講座を20件、大和ミュージアムの連携科学教室4件及び工作教室1件、出前授業11件を実施した。

【中期計画】

③「アカデミア」等を活用し、地域理科教育連携事業等を行う。

【年度計画・活動内容】

小・中学校等との地域連携事業の推進(H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

職場体験や文化行事への支援を実施する。

【活動内容】阿賀中学校の生徒を受け入れ、インターンシップを実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

職場体験や文化行事への支援を実施する。

【活動内容】8月22日～26日に阿賀中学校の生徒を受け入れ、インターンシップを実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

職場体験や文化行事への支援を実施する。

【活動内容】8月20日～24日に阿賀中学校の生徒を受け入れ、インターンシップを実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

職場体験や文化行事への支援を実施する。

【活動内容】8月20日～26日に阿賀中学校の生徒を受け入れ、インターンシップを実施した。

#### 【中期計画】

④同窓会及び後援会との連携を強化する。

#### 【年度計画・活動内容】

卒業生の動向把握、ネットワーク構築及び活用

平成21年度

卒業生の動向把握、ネットワーク構築及び活用

【活動内容】同窓会名簿の作成及び更新を行った。県外同窓会支部創設によるネットワーク強化の検討を行った。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学校側のサポート体制構築の検討を開始する。

【活動内容】高専祭や、高専設立50周年記念行事などとの連携を目的として、数度検討会議を開催した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学校側のサポート体制構築の検討を開始する。

【活動内容】高専祭や、高専設立50周年記念事業などとの連携を目的として、学校側のサポート体制構築の検討を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

学校側のサポート体制構築を検討する。

【活動内容】ホームカミングデーを実施し、1期生から現役学生まで30数名の参加者があり、卒業生ネットワークを強化することができた。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

同窓会等でホームカミングデーを設定し、卒業生ネットワークの構築を検討する。

【活動内容】卒業生ネットワークの構築を目的として昨年同様本校でホームカミングデーを実施した。また、併せて同窓会総会を実施し、同窓会名簿の編集を行うことが決定した。

【中期計画】

⑤国際的な教育研究交流を活発化する。

【年度計画・活動内容】

海外の教育機関との国際交流やインターンシップの推進

平成21年度

海外の教育機関との国際交流やインターンシップの推進

【活動内容】本科生98名が64社、専攻科生27名が26社の企業にてインターンシップを実施した。フィリピン・エミリオアギナルド大学長訪問への対応。マウイコミュニティカレッジ教員・学生訪問への対応。AMA コンピュータ大学教員訪問への対応。トムスク工科大学訪問。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

国際交流室と連携した本校独自の海外インターンシップ制度の検討を開始する。トムスク工科大学への郊外実習（インターンシップ）の実現を図る。

【活動内容】トムクス工科大学(TPU)に本校学生を派遣し、インターンシップを実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

PBL コンテスト（国際LEGOロボコン）を実施する。

【活動内容】2月中旬に、トムクス工科大学担当者とTV会議を行い、来年度以降の実施に向けた議論を行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本校独自の海外インターンシップ制度の検討を開始する。

【活動内容】11月16日～19日に中国大連で視察を行い、海外インターンシップの検討を開始した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

トムスク工科大学の学生2名の受け入れを実施する（派遣なし）。

【活動内容】学生2名が来校し、予定された研究プログラムを終えて帰国した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

トムスク工科大学等とインターネットを介してロボコン競技を実施する。

【活動内容】3月に競技を実施する予定であったが、実施しなかった。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

本校独自の海外インターンシップ制度を検討する。

【活動内容】低学年から海外で異文化交流が行えるよう、検討を開始した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

大連大学と双方向の学生交流を行う。

【活動内容】 予定通り実施し、今後も期待できる成果を得た。

平成24年度：実施結果 I「実施していない。」

インターネットを介してのロボコン競技について、今後の実施に向けて検討する。

【活動内容】 本校の国際交流のあり方について再検討を行い、ロボコン競技を見直すこととし、実施を取り止めとした。

平成25年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

新たに、低学年30名を対象に、大連大学との異文化交流を9月に実施する。

【活動内容】 大連大学との異文化交流(9/9～9/12)で、低学年20名が参加し、日本文化の紹介プレゼンや大連学生と一緒に大連市内の観光名所探索等により異文化交流を深めた。ハワイUHCMC交流研修(9/1～9/11)に23名が参加し、新たに取り入れた語学研修授業への参加やホームステイを体験学習した。外務省主催の架け橋プロジェクトの北米研修(3/16～3/26)に23名が参加し、日本文化を紹介する4テーマを英語でプレゼンし、特に五重塔やカラクリ人形のプレゼンは領事館での代表プレゼンに選出されCool Japanのアピールに貢献した。

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

大連大学との双方向の学生交流を行う。

【活動内容】 大連大学との学術交流の一環で、建築学科領域について双方向で4名の学生交流(8/18～8/28、9/2～9/15)を実施した。

#### 【中期計画】

### ⑥留学生受入れ拡大に関する方策を検討し、実施する

#### 【年度計画・活動内容】

留学生の受入拡大のために必要な環境整備や受入体制の強化等(H22～H23)

平成22年度：実施結果 III「十分に実施した。」

第3学年編入私費留学生の受入れに向けて具体的な選考基準を検討する。

【活動内容】 第3学年編入試験(外国人対象)の選考基準を作成し、応募者2名に対する合否判定を行った。

平成22年度：実施結果 III「十分に実施した。」

第6寮を留学生と専攻科生を対象とする男子寮となるように改修を行うとともに、第5寮を留学生と専攻科生の女子寮となるように改修計画を検討する。

【活動内容】 第6寮(男子留学生及び男子専攻科生用)については、改修完了。第5寮(女子留学生及び女子専攻科生用)については、来年度に改修する予定である。

平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

第3学年編入私費留学生在受験する日本留学試験にける理科の科目や英語能力試験に関する要望事項を整理する。

【活動内容】第3学年編入学試験（外国人対象）学生募集要項に理科の選択科目や英語能力試験の得点に関する要望事項を掲載した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

第5寮を留学生と専攻科生の女子寮となるように改修する。

【活動内容】12月に改修完了、1月より女子留学生入居。

#### 【年度計画・活動内容】

外国人留学生に対する研修旅行など、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会の提供

平成21年度

外国人留学生に対する研修旅行など、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会の提供

【活動内容】外国人留学生見学旅行実施（福山市 鞆の浦、日本はきもの博物館、日本郷土玩具博物館）。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

里親会と連携して我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。

【活動内容】里親会と連携して、12月12日に下関市と門司市へのバス旅行を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

留学生寮12名収容の整備拡充計画を実現する。

【活動内容】第6寮（男子留学生及び男子専攻科生用）については、改修完了。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

国際交流を学内でも具体的な企画を検討する。

【活動内容】新たにTPUとインターンシップを核とした夏季学生交流プログラムを締結した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

ソフト面として学校企画で本校生あるいは他校留学生と交流する。

【活動内容】MCC、TPU学生と交流した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

里親会との懇談会、里親会への支援（経済的、行事等）を強化する。

【活動内容】6月に里親会と連携した行事を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

里親会と連携して我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。

【活動内容】里親会と連携して、12月11日に四国の金比羅宮と栗林公園へバス旅行を行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

米国からの交換留学生を聴講生として受け入れる。

【活動内容】8月に来日、後期から建築学科1年へ参加し、1年間滞在した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

ハワイ大学マウイコミュニティカレッジへ本科生を送り出し、交流する。

【活動内容】10月第3週に本科生18名が交流授業及びホームステイを行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

里親会との連携行事を継続的に推進する。

【活動内容】6月に国際交流パーティーを実施、10月2日に夏休み報告会を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

里親会と引き続き連携して我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。

【活動内容】中国地高専による留学生シンポジウム（津山高専主催）が1月に行われ、本校から8名（留学生3名、日本人学生5名）が参加した。里親会と連携して、12月にバス旅行（岩国・錦帯橋）を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

米国からの交換留学生を聴講生として受け入れる。

【活動内容】ロータリー交換留学生は日米間で相互に完了した。次年度、別の留学スキームについて具体的検討を行う。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

ハワイ大学マウイコミュニティカレッジへ本科生を送り出し、交流する。

【活動内容】10月に10名の本科生による交流が終了した。次年度、プログラムを変更して夏季休業中に実施することで計画している。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

里親会との連携行事を継続的に推進する。

【活動内容】6月に実施した。留学生の夏休み活動報告会も後期に実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

里親会とも連携し、行事を行い、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。

【活動内容】国際交流パーティーを開催（6/8）し、本校留学生4名を中心に学外からの参加者も含め80名を超える参加があった。北米ホイットニーヤング高校の学生21名が来校（7/12～7/14）し、3泊4日のホームステイを体験した。中国地区8高専のコンソーシアム主催の留学生との交流行事（10/12～10/14）に本校から留学生2名、学生12名が参加した。

国際的な教育研究交流等

○海外の教育機関との国際交流活動状況調査(H23～H25)

	取組名称	取組の具体的内容(期日, 会場, テーマ, 単位認定状況等)	取組状況(出席者数等)
H23	国際ロボットコンテスト	平成24年3月5日 呉工業高等専門学校とトムスク工科大学の双方向で、Skypeを利用してLEGOマインドストームによる国際ロボットコンテストを実施した。	参加学生 4名 大会関係教員 8名 補助学生 5名
H24	KNCT(日)-DU(中)学生相互交流プログラム	8月22日～9月1日 協定校である大連大学にて本校教員主導によるプロジェクトワークを実施。 9月3日～9月16日 本校にて大連大学生を受け入れ、大連訪問を引率した教員が引き続きプロジェクトワークを実施。双方向での交流を行った。 希望者は一定の要件を満たせばインターンシップの単位として認定。	日本人学生2名、引率1名 大連大学学生2名
	ハワイ大学マウイ校姉妹校交流研修	10月9日～10月15日 協定校であるハワイ大学姉妹校を訪問し、日本語クラスの学生と日本語・英語による交流。宿泊は日本語クラスの学生宅にホームステイ。 オールラウンドコミュニケーションを受講している学生は渡航前後にスカイプ交流を実施している。	参加者10名 引率2名
H25	KNCT(日)-DU(中)学生相互交流プログラム	平成25年8月18日(日)～28日(水)(本校学生2名を大連大学へ派遣) 平成25年9月2日(月)～13日(金)(大連大学生2名を本校で受入) 本校と交流協定を締結した中国・大連大学を拠点として、学生ニーズに合わせた交流を2週間のプログラムで実施。	日本 学生2名、引率教員1名 中国 学生2名
	UHMCホームステイ語学研修	平成25年9月1日(日)～11日(水) 本校と交流協定を締結しているハワイ大学マウイ校で、語学力の向上を目指し、ホームステイをしながら現地大学のプログラムに参加した。	学生23名、引率教員2名
	大連・異文化体験プログラム	平成25年9月9日(月)～13日(金) 本校と交流協定を締結した中国・大連大学で、世界に目を向ける第1歩として、本校学生が現地の生活や文化に触れることができる内容で実施。	学生20名、引率教員5名

○海外学生受入等状況調査

年度	派遣元国名	派遣元機関等	受入人数(就学年別)							教員等	研修等内容	研修等期間 (年月日)
			10	11	12	13	14	15	16			
H21	アメリカ	ハワイ大学マウイ校							8	3	異文化体験、異文化交流	H21.6.5 ~ H21.6.8
H23	ロシア	トムスク工科大学						2			研究等、異文化体験、異文化交流	H23.8.20 ~ H23.9.4
	アメリカ	Nerinx Hall高校	1								語研修、研究等、異文化体験	H23.9.26 ~ H24.6.20
H24	中華人民共和国	大連大学							2		異文化交流	H24.9.3 ~ H24.9.10
H25	中華人民共和国	大連大学						1	1		研究等	H25.9.2 ~ H25.9.13

※就学年は、10を本科1年生相当学年の学生を受け入れている。

○外国人留学生に対する研修旅行実施状況調査

年度	名称	概要	実施年月日	参加人数				
				留学生	学生	教員	その他	計
H21	秋の文化・自然発見旅行	留学生に自然景観や各地の習俗、風俗を見学・体験させることにより、日本の歴史や文化に対する理解を深めることを目的に毎年実施。平成21年度は福山市鞆町を訪れ、架橋問題(景観or生活)や万葉集の時代から続く歴史に直に触れることができた。また、日本はきもの博物館、日本郷土玩具博物館を見学した。	H21.12.13 ~ H21.12.13	6		5	27	38
H22	秋の文化・自然発見旅行	留学生に自然景観や各地の習俗、風俗を見学・体験させることにより、日本の歴史や文化に対する理解を深めることを目的に毎年実施。平成22年度は北九州市と下関市を訪れた。北九州市では、貿易港として栄えた面影と新しい建物が調和した門司港レトロ地区を散策した。また、下関市では、赤間神宮、しものせき水族館「海響館」を見学した。	H22.12.12 ~ H22.12.12	6		7	19	32
H23	秋の文化・自然発見旅行	留学生に自然景観や各地の習俗、風俗を見学・体験させることにより、日本の歴史や文化に対する理解を深めることを目的に毎年実施。平成23年度は海運の神様が祀られている金比羅宮と栗林公園の松盆栽の見事な庭園を見学した。また、中野うどん学校ではうどん作りを体験した。	H23.12.11 ~ H23.12.11	6	1	3	30	40
H24	秋の文化・自然発見旅行	留学生に自然景観や各地の習俗、風俗を見学・体験させることにより、日本の歴史や文化に対する理解を深めることを目的に毎年実施。平成24年度は錦帯橋と秋芳洞・秋吉台を訪れ、自然が生み出した芸術を堪能した。	H24.12.9 ~ H24.12.9	5	2	3	24	34
H25	秋の文化・自然発見旅行	留学生に自然景観や各地の習俗、風俗を見学・体験させることにより、日本の歴史や文化に対する理解を深めることを目的に毎年実施。平成25年度は銅山経営・ベンガラ生産で栄えた吹屋を訪れ、往時を偲ばせる豪商の邸宅や坑道を見学した。	H26.12.8 ~ H26.12.8	4		2	24	30

【中期計画】

⑦地域課題解決に資する活動を行う。

【年度計画・活動内容】

教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果発信を目的とする印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いた広報体制の整備（H21～H23）

平成21年度

教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果発信を目的とする印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いた広報体制の整備

【活動内容】研究シーズ集やセンター年報の発刊及びホームページへの掲載を行った。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

融合・複合を考慮したシーズ集の検討を開始する。

【活動内容】学内シーズを7割方収集し、その体裁を検討しているが、時間的制約のため、あまり進んでいないため、次年度以降の継続課題としたい。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広報室及び教育センターと連携して、本校研究活動の広報発信を企画する。

【活動内容】広島大学のリポジトリを利用して、呉高专研究報告集を発刊することができた。

【年度計画・活動内容】

地域技術者育成への貢献（H23～H25）

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

㈱アドウィンと連携し、地域企業技術者のスキル向上を目的とした講義を実施する。また本校教員のリソースを活用した企業への出前授業実施の可否を検討する。

【活動内容】11月30日に試行的に企業技術者向けの出前授業を実施した。また、2月24日にも同様の出前授業を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

㈱アドウィンと連携し、地域企業技術者のスキル向上を目的とした講義を実施する。また、本校教員のリソースを活用した企業への出前授業を試行的に実施する。

【活動内容】本校独自の取り組みとして、次年度に向けて組み込みソフト関連公開講座の実施計画を策定し、地域のニーズ調査を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

地域企業技術者のスキル向上を目的とし、本校教員のリソースを活用した公開講座を充実させる。

【活動内容】建築士2級講座及組み込み系公開講座の2講座を実施した。

**【年度計画・活動内容】**

**地域との連携強化（H24～H25）**

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

呉地域オープンカレッジネットワーク会議及び呉信用金庫と連携し、地域の課題解決に向けた取り組みを行う。

【活動内容】呉地域オープンカレッジネットワーク会議を通して、地域研究及び町おこし事業等を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

呉地域オープンカレッジネットワーク会議及び呉信用金庫と連携し、地域の課題解決に向けた取り組みを行う。また、新たに呉市と連携し、青少年の科学教育推進も含め、市街地の活性化に全校を上げて取り組む。

【活動内容】呉地域オープンカレッジネットワーク会議を昨年同様に実施した。呉市街地の活性化を目的とした会合「くれ中央地区の会」に毎月参加し、活性化に向けての議論を行った。呉市中心部の活性化を目的とし、「公園内あずまやが老若男女の憩いの場になるソーラーパネルシステム」の研究をスタートさせた。



呉工業高等専門学校  
第2期中期目標期間 中期計画・年度計画

- I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

4 管理運営に関する事項

#### 4. 管理運営に関する事項

##### 【中期計画】

##### ①学校内の資源配分を戦略的かつ計画的に行う。

##### 【年度計画・活動内容】

##### 戦略的かつ計画的な予算配分の執行(H22~H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分方式を導入する。

【活動内容】学内において公募による予算配分方式を6月に行い、審査の結果5件採択した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分方式を導入する。

【活動内容】学内において公募による予算配分方式を6月に行い、審査の結果2件採択した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分方式を導入する。

【活動内容】全校又は分野などを実施単位とする取組に関して前期と後期に公募を行い、審査の結果8件採択した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】6月に新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトを推進するための予算公募を行い、審査の結果4件採択した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】学内において公募による予算配分方式を6月に行い、審査の結果3件採択した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】全校又は分野などを実施単位とする取組に関して前期と後期に公募を行い、審査の結果合計14件採択した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】学内公募を行い、審査の結果8件採択した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】学内において公募による予算配分方式を6月に行い、審査の結果1件採択した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】全校又は分野などを実施単位とする取組に関して前期に公募を行い、審査の結果9件採択した。後期は学内公募を行わなかったが、2学年のホームルームにプロジェクトを設置した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分を実施する。新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分を実施する。全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分を実施する。

【活動内容】公募による予算配分事項については、校長裁量経費及び副校長・教務主事裁量経費に集約し効率・効果的に実施した。

#### 【中期計画】

② 管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。

#### 【年度計画・活動内容】

管理運営体制の改善（21～H23）

平成21年度

管理運営体制の改善

【活動内容】第二期中期計画下の重点項目の取り組み推進に適した運営体制へ移行した。人事計画部会の検討に基づき教員人事方針を明確化した。予算計画部会の検討に基づき副校長、主事等に所掌業務実施計画に応じた予算を配分した。施設計画部会の検討に基づき計画的に施設整備予算要求案を策定した。体制変更の効果・問題点に関する教職員対象アンケート調査を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新運営体制とその手直しに伴う新たな業務分担と所掌事項の変更を規則等に反映する。

【活動内容】平成23年度からの教育センターの運営組織の見直しを行い、センター内に基盤部門と総合教育部門を設けることとした。

平成23年度：実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

教育センター内に基盤部門と総合教育推進部門を設け、学校全体の教育環境の整備を行う。

【活動内容】教育センター内に基盤部門と総合教育推進部門を設け、学校全体の教育環境の整備を行うとともに、教育センター委員会を開催して情報の共有化を進めた。

【年度計画・活動内容】

非常勤事務職員の能力・適性を生かした配置及び業務体制の構築(H22~H25)

平成22年度：実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

教育センター所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直しを行う。

【活動内容】平成23年度からの教育センターの運営組織見直しに合わせて、キャリア教育など教育の高度化を支援する非常勤職員の業務内容の見直し及び人員の集約化を実施した。

平成23年度：実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

総務課及び学生課所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直しを行う。

【活動内容】平成23年4月以降、採用、配置換え及び教育センター部門担当の見直しを実施した。

平成24年度：実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

総務課及び学生課所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直しを行う。

【活動内容】教育センター業務に関して、関係室長を軸に情報共有を図った。事務系非常勤職員よりヒアリングを実施し、業務内容の実状調査を実施した。

平成25年度：実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

総務課及び学生課所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直し検討を行う。

【活動内容】非常勤事務職員への面談を実施し、個々の能力や適性を生かした配置及び業務内容について検討を行い、次年度秋に見直すこととした。

【年度計画・活動内容】

「技術センター」を技術職員の新たな位置付けに相応しい業務体制の整備(H22)

平成22年度：実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

技術職員による業務支援体制の一元化処理などの見直しを行う。

【活動内容】技術センターの新体制を構築し、教育や研究など各種支援業務を実質的に技術センターへ一元化処理する運営の仕組みを設けた。

【年度計画・活動内容】

ガバナンスの強化(H22~H24)

平成22年度：実施結果Ⅱ「十分に実施していない。」

危機管理体制の点検・整備を行う。

【活動内容】現行のマニュアル及び手引き類の確認を行うとともに、危機及びリスク事項の抽出・検討を行い、危機管理規則（案）を作成した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

苦情相談体制の整備を図る。

【活動内容】7月27日に「教職員意見箱」及び「学生・保護者意見箱」の運用を開始した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

危機管理体制の点検・整備を行う。

【活動内容】平成23年4月、呉工業高等専門学校危機管理規則を制定し、危機管理体制の整備を図った。また、6月震災初期対応のマニュアル及び基本行動要領等を作成した。平成23年11月、地震発生時の津波対策について現状の整理を行った。また、呉高専防災マニュアルの改訂に着手した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

危機管理体制の点検・整備を行う。

【活動内容】連絡システムの試用にて、特段の不具合がないことを確認した。危機管理マニュアルの改定を行った。

#### 【年度計画・活動内容】

##### ガバナンス及びコンプライアンスの強化(H25)

平成25年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

幹部教職員による意見交換会にてガバナンスに係る事案共有を図る。高専機構本部による「コンプライアンスマニュアル」及び「コンプライアンスに関するセルフチェック」を活用して、教職員のコンプライアンス向上を行う。地元での合同避難訓練を実施予定。

【活動内容】平成25年度から「意見交換会」を「運営連絡会」に名称を変更し、毎週1回（延べ45回）、校長、副校長、3主事、専攻科長、事務部長、2課長による会議を開催し、管理運営全般（危機管理、ガバナンス及びコンプライアンスの強化など）に係る情報共有を図った。常勤教職員全員のコンプライアンスに関するセルフチェックの提出が完了し、内容について特に問題はなかった。呉市、地域住民及び教育機関が連携した合同避難訓練については、残念ながら台風により中止となり、日程調整が困難なため、今年度は開催できなかった。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 情報管理の整備・改善

平成21年度

情報管理の整備・改善

【活動内容】情報セキュリティ・ソフトウェア管理の実施。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

機構の管理システムの導入に合わせ、本校の管理体制を整備する。

【活動内容】機構の管理システムの導入が年度末となったため、その対応のみを実施中である。現時点では、これまでの管理体制を継続しており、システムの運用は実施できていない。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

体系的・組織的に管理業務を行うため、「セキュリティポリシー実施手順書」の作成を開始する。

【活動内容】機構の規則制定に合わせ、本校の規定を定めた。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構の管理システムの導入に合わせ、本校の管理体制を整備する。

【活動内容】9月7日に情報セキュリティ講習会を実施した。情報セキュリティ教育実施手順や情報セキュリティ対策実施手順の策定を進めた。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構の管理システムの導入に合わせ、本校の管理体制を整備する。

【活動内容】学内ネットワークシステムの更新を行い、セキュリティ管理の充実を図った。規定に基づきソフトウェア管理検査を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構の管理システムに合わせ、本校の管理体制を整備する。

【活動内容】無線LANシステムの更新及び情報の格付け作業を実施した。機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施し、適正に管理できていることを確認した。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 服務規律の遵守(H23~H25)

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新任教職員向けに服務規律の遵守を徹底する。

【活動内容】新任の教員については教務主事より、職員については総務課長より、採用後に説明を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新任教職員向けに服務規律の遵守を図る。

【活動内容】服務規律に関する新任教職員研修を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新任教職員向けに服務規律の遵守を図る。

【活動内容】新規採用教員を対象としたオリエンテーションを実施(4/10)し、服務、その他、本校の概要説明を行った。新規採用教員懇談会を開催(11/25)し、教員からの要望事項を聴取した。要望事項の中で、緊急性の高いものは直ちに対処し、その他の要望事項については、文書にて回答を行った。なお、この内容については教員会において全教員に報告を行った。

## 【年度計画・活動内容】

### 自己点検・評価体制の改善(H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育改善PDCAサイクルの実施方法をわかりやすく表現し、構成員に周知を図る。

【活動内容】H21年度に教務委員会で検討した結果をまとめ、本年度教員会にて公表周知した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

自己点検・評価に用いる可能性のあるデータの効率的な集約方法を検討する。

【活動内容】JABEEや認証評価に用いる基礎データの所在と継続的集積の仕組みを検討中であり、次年度以降の継続課題とする。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育改善PDCAサイクルの実施方法をわかりやすく表現し、構成員に周知を図る。

【活動内容】JABEEにおけるPDCAサイクルの見直しを行い、全プログラムで統一した表現に改め、構成員に周知を図った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

自己点検・評価に用いる可能性のあるデータの効率的集約方法を引き続き検討する。

【活動内容】JABEEや認証評価に用いる基礎データの所在と継続的集積の仕組みを検討した。次年度以降も継続課題とする。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育改善PDCAサイクルの周知を図るとともに、点検・整備を行う。

【活動内容】教育改善PDCAサイクルの周知を図り、教育内容の点検・改善を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

自己点検・評価に用いる可能性のあるデータの効率的集約方法を引き続き検討する。

【活動内容】平成25年度認証評価受審に向けて、自己評価書（高等専門学校機関別認証評価申請書、選択的評価事項に係わる評価申請書）を作成するとともに、基礎データを収集し保管した。平成25年度認証評価受審において必要とされる、「教育理念」及び「教育目標」に関する学生アンケート並びに「教育理念」、「教育目標」及び「アドミッションポリシー」に関する教職員アンケートを実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

教育改善PDCAサイクルの周知を図るとともに、点検・整備を行う。全教員が、H24年度の活動報告書とH25年度の活動PLANを提出する。それに基づき校長面談を行う。

【活動内容】全教員がH24年度の活動報告及びH25年度の活動PLANを校長へ提出した。提出された活動報告・活動PLANに基づき、7月から8月にかけて、校長が全教員と面談を行い、校長が各教員の教育研究活動等を把握し、改善に必要な事項をフィードバックするなど自己点検・評価体制の改善を図った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

H25年度の機関別認証評価受審に向けて、対応組織を立ち上げ、自己点検・評価体制の改善を図る。

【活動内容】自己点検等管理委員会のもとに認証評価専門小委員会（第1～9部会）を設置し、対応することとした。なお、部会主査が連絡調整を行う認証評価連絡調整WGも同時に設置した。認証評価において指摘された本校の「改善を要する点」に関し、自己点検等管理委員会を中心として改善計画を検討中である。「具体的到達目標」に関しては、教育改革検討プロジェクトにおいて検討中である。

#### 【中期計画】

③事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流を活用し、事務職員及び技術職員の能力向上を図る。

#### 【年度計画・活動内容】

校長や主事クラスなどを対象とした学校の管理運営に関する研修会 (H21～H22)

平成21年度

校長や主事クラスなどを対象とした学校の管理運営に関する研修会

【活動内容】教務主事参加、機構主催教員研修（管理職研修）（3日間、目的：学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識を習得させ、各高専の中核となる教員の資質向上を図る）。学生課長参加、機構主催新任部課長研修（2日間、目的：新任部課長に学校運営の基礎的知識の習得及び幹部職員としての資質向上を図る）。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構主催教員研修（管理職研修）へ参加（副校長（総務・企画）、寮務主事）する。

【活動内容】9月下旬から10月上旬に開催された機構主催教員研修（管理職研修）に寮務主事が参加した。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構主催新任部課長研修へ参加（事務部長）する。

【活動内容】事務部長が7月に開催された機構主催新任部長研修に参加した。総務課長が9月に開催された機構主催新任課長研修に参加した。

平成22年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

幹部教職員学校内勉強会を開催する。

【活動内容】毎週月曜日（午後）、幹部教職員（校長、副校長、各主事及び部課長）による、組織統治のための検討の場の一つとして、当面の諸課題に関すること及び互理解等を目的とした意見交換会を開催した。

【年度計画・活動内容】

学校の管理運営に関する研修会等 (H23~H25)

平成23年度：実施結果 I「実施していない。」

機構教員研修（管理職研修）へ参加（副校長（総務・企画）、副校長補佐（将来計画等））する。

【活動内容】授業時間との調整ができず参加することができなかった。

平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

機構等の主催する部課長研修会へ参加する。

【活動内容】人事院中国主催の研修会に事務部長が参加した。

平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

幹部教職員による意見交換会を開催する。

【活動内容】幹部教職員（校長、副校長、各主事及び部課長）による、組織統治のための検討の場の一つとして、当面の諸課題に関すること及び相互理解等を目的とした意見交換会を開催した。

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。

【活動内容】機構主催の教員研修会へ延べ3名が参加した。

（内訳）管理職研修：1名、クラス経営・生活指導研修会：2名。

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

幹部教職員による意見交換会を開催する。

【活動内容】毎週月曜日を定例として、校長意見交換会を45回実施した

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

機構等主催の研修会等へ役職員が積極的に参加する。幹部教職員による意見交換会を開催する。

【活動内容】機構等が主催する研修へ次のとおり参加した。

国立高等専門学校機構労務管理研修：2名（校長、事務部長）

中国・四国地区国立大学法人等労務管理連絡会：2名（事務部長、総務課長）

中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会：1名（事務部長）

平成25年度から「意見交換会」を「運営連絡会」に名称を変更し、毎週1回（延べ45回）、校長、副校長、3主事、専攻科長、事務部長、2課長による管理運営全般（危機管理、ガバナンス及びコンプライアンスの強化など）の情報共有を図る会議を開催した。

【年度計画・活動内容】

事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会

平成21年度

事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会

【活動内容】機構等が主催する研修へ次のとおり参加した。また、事務職員の英語研修（学内）を実施した。

機構主催階層別研修

初任職員研修 4 名、中堅職員研修 1 名、係長研修 1 名、課長補佐研修 1 名が参加  
機構主催実務対応型研修

給与決定事務研修 2 名、学務関係職員研修 1 名、技術職員研修 2 名が参加  
中国・四国地区国立大学法人主催研修

係長研修 1 名、労務担当職員研修 1 名、会計事務研修 1 名、技術職員研修 1 名が参加  
中国地区高専主催技術職員研修 技術職員 1 名が参加  
高専機構初任職員研修会(6/10～6/12、埼玉県、1 名)

中国地区高等専門学校技術職員研修参加(8/19～8/20、徳山高専、1 名)

中国四国地区国立大学等技術職員専門職員研修参加(8/26～28、岡山大学、1 名)

平成 22 年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

機構等の主催する研修会へ参加する。

【活動内容】文部科学省、高専機構及び中国人事院等主催する 10 研修会に、延べ 12 人が参加した。

平成 22 年度：実施結果 III「十分に実施した。」

学校内勉強会を実施する。

【活動内容】9 月 6 日に学外講師（広島大学教授）を招聘し、職員の能力開発や職協働等に関する講演を開催した。

平成 22 年度：実施結果 III「十分に実施した。」

e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、検討する。

【活動内容】9 月 13 日に教員と担当職員が当面の重要問題を討議し、共通理解を深め、諸問題の解決に当たるため、学生指導教職員研究会を開催した。

平成 22 年度：実施結果 III「十分に実施した。」

技術センター将来計画検討WGの検討結果を踏まえて活動する。

【活動内容】技術職員対象の各種研修会（中国地区高専技術職員研修会、中国四国地区国立大学法人等技術職員研修会、西日本地域高専技術職員研修会）に参加した（各 1 名）。研削用といし取替え等業務講習会（1/19、1 名）及び安全管理講習会（2/16、2 名）に参加した。

平成 23 年度：実施結果 III「十分に実施した。」

機構等の主催する研修会へ参加する。

【活動内容】高専機構及び人事院中国等が主催する 7 研修会に、延べ 23 名が参加した。

平成 23 年度：実施結果 III「十分に実施した。」

学校内勉強会を実施する。

【活動内容】今年度、英語の勉強会を 16 回行った。平成 23 年 12 月及び平成 24 年 1 月、副校長（運営担当）による若手職員を対象とした研修会を開催した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、引き続き検討するとともに、研修方法及び内容の構築を行う。

【活動内容】研修内容等の構築に着手した。

平成23年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

技術職員対象の各種研修会及び資格取得等講習会に、積極的に参加する。

【活動内容】中国地区高専技術職員研修（8/18～19、広島商船高専、2名）、中国四国地区国立大学法人等技術職員研修（8/24～26、徳島大学、1名）、中国四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会（9/1～2、広島大学、1名）に参加した。なお、技能講習会（プレス機械作業主任者、木材加工用機械作業主任者）に計3名が受講する予定であったが、授業時間の調整がつかず受講できなかった。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構等の主催する研修会及び各職員が担当する業務に関する実務研修会等に参加する。

【活動内容】機構等主催の事務職員研修会へ延べ24名、技術職員研修会へ延べ3名が参加した。新任職員・課長補佐・係長研修会（7名）、給与実務初任者等研修会（1名）、人事事務担当者説明会（1名）、学務関係職員研修会（1名）、情報担当者研修会（2名）、西日本地域高専技術職員特別研修会（1名）、地区研修等（4名）、その他（9名）。

平成24年度は、例年に増して、事務職員・技術職員が他機関主催の研修会等へ積極的に参加しており、来年度も引き続き職員の能力向上のための研修会等へ積極的に参加することとした。

平成24年度：実施結果 Ⅰ「実施していない。」

若手職員（採用後1年～5年程度）を中心とした学内勉強会を実施する。若手職員（採用後1年～5年程度）を中心に、近隣の中国地区高専見学ツアーを実施する。

【活動内容】広島商船高専の施設見学を予定していたが、先方との日程が合わず、実施を見合わせた。

平成24年度：実施結果 Ⅰ「実施していない。」

e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、研修方法及び内容の構築を整備する。

【活動内容】来年度の実施に向けて、引き続き検討を進める。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

技術職員対象の各種研修会及び資格取得等講習会等に、積極的に参加する。

【活動内容】6月に安全衛生マネジメント研修会を技術センターで企画し、実施した。また、次の研修会等へ参加した。

平成24年度中国地区技術職員研修、西日本地域高専技術職員研修会（建設・環境系）、平成24年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修会、平成24年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員マネジメント研究会、平成24年度IT人材育成研修会 コース②「インターネットセキュリティ技術」、2012年度後期オムロン株式会社「制御技術セミナー」基礎コース。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

機構等の主催する研修会及び各職員が担当する業務に関する実務研修会等に参加する。若手職員（採用後1年～5年程度）を中心とした学内、学外研修会を実施する。e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、研修方法及び内容の構築を整備する。

【活動内容】主な研修として次のとおり延べ35名の事務職員が参加し、能力向上を図った。

中国地区係長研修（1名）、会計事務担当者説明会（2名）、全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会（1名）、奨学金事務新任者研修会（1名）、施設担当職員研修会（1名）等

若手職員を対象とした研修（SD研修会）として、職員の採用活動の活性化を図るため、外部講師による研修「職員採用活動について」を実施（11名）した。また、本校が企画した「タイムマネジメント研修」に中国地区高専若手職員34名の参加があり、グループ討論など実践的な研修を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

技術職員対象の各種研修会及び資格取得等講習会等に、積極的に参加する。

【活動内容】プレス機械作業主任者技能講習以外の研修については、予定通り終了した。プレス機械作業主任者技能講習（広島県労働基準協会）については、講習会を平成26年3月に実施できなかったため、次年度以降の予定に変更した。なお、年間を通して、その他の各種研修会に積極的に参加した。

#### 【年度計画・活動内容】

事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流

平成21年度

事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流

【活動内容】事務職員の広島大学との人事交流。広島大学からの出向者：16名（うち21年度の出向者は4名）。本校からの派遣者：1名

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を開始する。

【活動内容】広島大学及び近隣の高等専門学校と事務職員を対象とした長期研修交流について、意見交換を実施した。技術職員については、技術センターの組織見直しを図ったが、欠員補充が不調であることから協議にまで至らず、継続課題とする。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

大学との人事交流規模の適正化と高専間交流に関する検討を行う。

【活動内容】大学との人事交流の現状について分析・検討した。また高専間交流の可能性を検討した。大学の人事担当者と職位及び年令層も含め意見交換を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を実施する。

【活動内容】平成23年6月及び7月において協議を実施した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広島大学との人事交流規模の適正化と高専間交流に関する検討を行う。

【活動内容】平成23年6月及び7月において協議を実施した。また、併せて近隣他高専と事務系職員の人事交流について意見交換を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を実施する。

【活動内容】広島大学関係理事と協議を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

広島大学との人事交流規模の適正化と高専間交流に関する検討を行う。

【活動内容】広島大学及び近隣高専の人事担当課長と意見交換を実施した。

平成25年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

広島大学との人事交流規模の適正化及び高専間交流に関する検討を行う。広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を実施する。

【活動内容】広島大学人事担当部署との連絡を密にし、本年度も事務職員の円滑な人事交流により室長クラスを1名増とした。他省庁（総務省）との人事交流（係長級1名）にあたり、交流に係る覚書（地域手当の異動補償）を設けるなど、円滑な人事交流の促進を図った。諸会議などを利用して職員の人事交流について情報交換を行い、各校とも人事交流の必要性が高いと認識していることを確認し、次年度に向けて継続して検討を行うこととした。広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を行い、実施について支障がないことを確認した。

#### 【中期計画】

④初任者及び転入者研修のためのe-教材等を整備し、本校の学校運営方針を踏まえた研修を実施する。

#### 【年度計画・活動内容】

e-ラーニング化の検討(H22)

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

関係部署が連携し、e-ラーニング化の進め方を検討する。

【活動内容】人事係と教育センターにおいて、意見交換を行った。

#### 【年度計画・活動内容】

ネットワークを利用した情報提供(H23~H25)

平成23年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

新任教員や非常勤講師に学校の運営方針や教育研究に必要な情報をネットワークを介して提供できるように整備する。

【活動内容】新年度開始時に新任教員オリエンテーションと非常勤講師懇談会を開催し、学校の運営方針や教育研究に必要な情報を説明した。これらの情報をネットワークを介してe-ラーニングできるように検討を進めた。

平成24年度：実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

新任教員や非常勤講師に学校の運営方針や教育研究に必要な情報をネットワークを介して提供できるように整備する。

【活動内容】新任教員が着任した際に説明会を行い、新任教員マニュアルを配信した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

新任教員や非常勤講師に学校の運営方針や教育研究に必要な情報をネットワークを介して提供できるように整備する。

【活動内容】新任教員用手引き、非常勤講師用手引きをサイボウズ（学内専用グループウェア）で閲覧できるようにした。

呉工業高等専門学校  
第2期中期目標期間 中期計画・年度計画

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

1 業務運営の効率化に関する事項

## Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

### 1. 業務運営の効率化に関する事項

#### 【中期計画】

#### ①業務の効率化・合理化を推進する。

#### 【年度計画・活動内容】

#### 事務等の効率化・合理化 (H22～H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

事務・技術職員を対象とした「業務の洗い出し」を実施する。

【活動内容】事務職員及び技術職員を対象とした「業務の洗い出し」を実施し、「業務内容」、「業務量」、「所要時間」、「繁忙・閑散期」及び「各職員間の分担状況」を調査し、効率化・合理化に向けた改善の検討を実施した。

平成22年度：実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

高専機構業務マニュアル（契約・決算等）に沿った業務体制の確立。

【活動内容】機構のマニュアル改訂が遅れているが、現行マニュアルに沿った業務の見直しは行った（H22.12）。また、マニュアルの改訂後、再度、業務の見直しを図る。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

会計室において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくす。

【活動内容】毎週1～2回、会計室内での継続的な業務打合せにより、情報の共有が進み業務重複や無駄な作業が減少した。また、情報の整理（文書化）を行い、継続的な業務改善に利活用することとした。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

事務・技術職員を対象とした業務の効率化・合理化に向けた改善を検討し、実施する。

【活動内容】振替休日に係る書式見直し、外注印刷に係る経費削減を目的とした複合複写機の導入、学生食堂等委託契約に係る企画入札の実施及び学校行事の見直し（廃止及び縮小）等を実施した。平成23年12月及び平成24年1月、副校長（運営担当）による若手職員を対象とした研修会を開催した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専機構業務マニュアル（契約・決算等）に沿った業務体制を確立し、効率化を図る。

【活動内容】平成22年度末に行われた高専機構マニュアル改訂に沿った業務の見直しを行なった。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

事務部全体において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくすとともに業務分担等の見直しを行なう。

【活動内容】事務部連絡会（毎月定期）及び各室長による連絡会（業務必要毎）を実施した。会計室内（毎週1～2回）及び庶務室内（会計室長も参加）における事務打合せを行い、情報共有による業務重複や無駄な作業を縮減した。次年度も継続して情報の整理（文書化）を行い、業務改善を更に進めていくこととした。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

事務・技術職員を対象とした業務の効率化・合理化に向けた改善を検討し、実施する。

【活動内容】学生課事務職員及び若手技術系職員に対し、教育機関を取り巻く社会情勢の変化及び方向性並びに能率・効率に視点を置いた改善8原則等の講義を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専機構業務マニュアル（契約・決算等）に沿った業務体制を確立し、効率化を図る。

【活動内容】マニュアルに沿った業務処理を実施した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

事務部全体において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくすとともに業務分担等の見直しを行なう。

【活動内容】毎週、各課各室の代表係長による情報共有を行い、業務分担の見直しにより、業務軽減を行った。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

事務・技術職員を対象とした業務の効率化・合理化に向けた改善を検討し、実施する。

【活動内容】管理職と職員が期首、期中及び期末に面談し、担当している業務の把握と現状分析を行い、改善に繋がる事項について意見交換し、各係で作成しているマニュアル及び業務フロー類のブラッシュアップを図っている。一部の係で超過勤務時間数が対前年度比20%減となった。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

高専機構業務マニュアル（契約・決算等）に沿った業務体制を確立し、効率化を図る。事務部全体において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくすとともに業務分担等の見直しを行なう。

【活動内容】高専機構規則及び業務マニュアルの改正を的確に把握し、随時本校業務マニュアルの見直しを行い、それに沿った業務処理を実施した。室長による連絡会を定期的(12回)に開催し、情報共有を図り業務軽減を進めた。

【中期計画】

②一般管理費の縮減に努めるとともに、随意契約の見直しを行う。

【年度計画・活動内容】

一般管理費の縮減(H22~H25)

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行う。

【活動内容】不要不急な物品購入や役務の見直しを行い効率的な予算執行に努めた。また、今後も継続して、伝票の精査を行うとともに、明文化を行い、サイボウズ（学内専用グループウェア）等で情報提供を行い、効率的な予算執行の徹底を図る予定である。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

必要数量を的確に把握し無駄な在庫品をなくす。

【活動内容】封筒・用紙・トナーについて、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品が発生しないようにした。また、今後も継続していく予定である。

平成22年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討する。

【活動内容】年間契約（H23 清掃・警備等）について、必要性を精査し、効率的な契約となるよう仕様を見直した。また、来年度以降も継続して見直しを図っていく。

平成22年度：実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては優先的に使用する。

【活動内容】物品（資産・備品）の全品検査を行い、不用品の把握を行った。不要な物品のうち利用希望がないもの及び高額修理費が必要なものについては、廃棄等の処分を行った。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品購入及び設備整備を推進する。

【活動内容】不要不急な物品購入や、役務の見直しを行い効率的な予算執行に努めた。また、サイボウズ（学内専用グループウェア）等を利用して学内周知を図った。今後も継続して伝票の精査を行なうとともに、学内に情報提供及び周知徹底を図っていく。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品をなくす。

【活動内容】封筒・用紙・トナーについて、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品が発生しないようにした。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討し教育環境の改善を図る。

【活動内容】年間契約（H23 清掃・警備等）や複写機更新について、必要性を精査し、効率的な契約となるよう仕様を見直した。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては、優先的に使用する。

【活動内容】不要な物品のうち利用希望がないもの及び高額修理費が必要なものについては廃棄等の処分を行なった。また、保守契約の費用対効果を検討し見直しを行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品購入及び設備整備を推進する。

【活動内容】不要不急な物品購入や役務の仕分けを行い、環境に配慮した物品購入及び設備整備に効率的な予算の執行を行った。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品をなくす。

【活動内容】封筒・コピー用紙・トナーについて、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫が発生しないようにした。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討し教育環境の改善を図る。

【活動内容】清掃・警備等、教育環境の改善に努めた。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては、優先的に使用する。

【活動内容】再利用できる物品を優先的に利用した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品購入及び設備整備を推進する。必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品をなくす。清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討し、教育環境の改善を図る。物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては、優先的に使用する。物品検査を強化し稼働状況等を把握するとともに、供用・返納・廃棄処理を確実に行う。

【活動内容】不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品を選定及び設備整備を行った。封筒・コピー用紙・文具類等、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫が発生しないよう取り組んだ。清掃・警備等の教育環境改善について、安全面に配慮しつつ、適正な仕様となるよう見直しを行い、安全な教育環境を確保した。不用物品を把握し、返納不要物品（備品・資産）は、サイトス上の高専間リユースに掲載し、他高専への照会（16件）を積極的に行った。取得額が低額な物品は、使用可能なものであれば、廃棄する前に学内にメール等で再利用者を捜し、可能な限り再利用を行った。

【年度計画・活動内容】

随意契約の見直し(H22~H25)

平成22年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。

【活動内容】電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、平成22年度分契約からすべて競争入札（一般・公募等）に移行した。

平成23年度：実施結果 III「十分に実施した。」

電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。また、企画競争（総合評価・公募）についても、競争性と透明性をより高める。

【活動内容】電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、平成23年度分契約はすべて競争入札（一般・公募等）で行った。

平成24年度：実施結果 III「十分に実施した。」

電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。また、企画競争（総合評価・公募）についても、競争性と透明性をより高める。

【活動内容】電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金を除き、契約は競争入札（一般、公募等）で行った。

平成25年度：実施結果 III「十分に実施した。」

電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。また、企画競争（総合評価・公募）についても、競争性と透明性をより高める。

【活動内容】電気、ガス、水道、電話、郵便等の公共料金に類する契約及び競争性のない随意契約を除き、競争入札で行った。企画競争（4件）についても、仕様書の見直し等を行い競争性・透明性を高めた。

【年度計画・活動内容】

一般競争契約における競争性と透明性の更なる確保(H22~H25)

平成22年度：実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

参加要件（地域・資格）緩和を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。

【活動内容】参加要件（地域・資格）緩和により、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減効果が現れている。また、今後も継続して、仕様の見直しも含めて競争性を確保していく。

平成22年度：実施結果 III「十分に実施した。」

入札における質問事項について参加希望業者すべてに対し回答を公表する等の措置を講じることにより透明性を確保する。

【活動内容】H22.7.1公告以降、入札における質問事項を全参加希望業者に対し回答を公表する等の措置を講じるようにしている。また、今後も継続して、透明性を確保するよう検討を行う。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

参加要件（地域・資格）緩和及び仕様内容を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。

【活動内容】参加要件（地域・資格）緩和により、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減効果が現れた。今後も継続して競争性を確保していく。

平成23年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

入札における質問事項について、すべての参加希望業者に対し回答を公表する等の措置を講じることにより、透明性を確保する。

【活動内容】H22.7.1公告以降、入札における質問事項を全参加希望業者に対し回答を公表する等の措置を講じるようにしている。今後も継続して透明性を確保していく。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

参加要件（地域・資格）緩和及び仕様内容を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。

【活動内容】参加要件の緩和により、競争性が増した。

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

入札における質問事項について、すべての参加希望業者に対し回答を公表する等の措置を講じることにより、透明性を確保する。

【活動内容】入札の透明性を確保した。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

参加要件（地域・資格）緩和及び仕様内容を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。入札における質問事項について、すべての参加希望業者に対し回答を公表する等の措置を講じることにより、透明性を確保する。補正予算執行を計画的かつ、迅速に行い教育研究環境整備を行う。

【活動内容】入札参加者数を増加させ競争性が増すよう参加要件緩和や必要最低限の仕様を策定した。入札における質問については、各社から寄せられた質問をとりまとめ、入札参加希望業者に、質問内容及び回答をメール等により送付し、透明性、公平性を確保した。補正予算執行に係る納品・検収については、年度内に完了した。

#### 【年度計画・活動内容】

##### 施設マネジメント、整備計画(H24～H25)

平成24年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様に省エネに努める。

【活動内容】日々の電気使用量を周知し、節電への呼び掛けを実施した。夏季及び冬季には、エアコンの温度を適正な温度にするよう周知を行い、前年度より7%節電することができた。

平成25年度：実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様に省エネに努める。施設・整備における長期計画の検討・制定を行う。

【活動内容】日々の電気使用量を教職員に周知し、節電への呼びかけ（13回）を行った。夏季及び冬季にはエアコン温度を適正な温度設定とするよう周知を行った。施設・整備における長期計画に関しては、建築学科教員の協力を得てマスタープラン原案を策定した。また、学寮地区に関しては、施設計画WGを立ち上げ、学寮、福利施設等の改修計画を策定した。

独立行政法人通則法（抄）  
（平成十一年七月十六日法律第百三号）

（中期目標）

- 第二十九条 主務大臣は、三年以上五年以下の期間において独立行政法人が達成すべき業務運営に関する目標（以下「中期目標」という。）を定め、これを当該独立行政法人に指示するとともに、公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。
- 2 中期目標においては、次に掲げる事項について定めるものとする。
    - 一 中期目標の期間（前項の期間の範囲内で主務大臣が定める期間をいう。以下同じ。）
    - 二 業務運営の効率化に関する事項
    - 三 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
    - 四 財務内容の改善に関する事項
    - 五 その他業務運営に関する重要事項
  - 3 主務大臣は、中期目標を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

（中期計画）

- 第三十条 独立行政法人は、前条第一項の指示を受けたときは、中期目標に基づき、主務省令で定めるところにより、当該中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を作成し、主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。
- 2 中期計画においては、次に掲げる事項を定めるものとする。
    - 一 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
    - 二 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
    - 三 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画
    - 四 短期借入金の限度額
    - 四の二 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画
    - 五 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画
    - 六 剰余金の使途
    - 七 その他主務省令で定める業務運営に関する事項
  - 3 主務大臣は、第一項の認可をしようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。
  - 4 主務大臣は、第一項の認可をした中期計画が前条第二項第二号から第五号までに掲げる事項の適正かつ確実な実施上不適当となったと認めるときは、その中期計画を変更すべきことを命ずることができる。
  - 5 独立行政法人は、第一項の認可を受けたときは、遅滞なく、その中期計画を公表しなければならない。

（年度計画）

- 第三十一条 独立行政法人は、毎事業年度の開始前に、前条第一項の認可を受けた中期計画に基づき、主務省令で定めるところにより、その事業年度の業務運営に関する計画（次項において「年度計画」という。）を定め、これを主務大臣に届け出るとともに、公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。
- 2 独立行政法人の最初の事業年度の年度計画については、前項中「毎事業年度の開始前に、前条第一項の認可を受けた」とあるのは、「その成立後最初の中期計画について前条第一項の認可を受けた後遅滞なく、その」とする。

呉工業高等専門学校 平成27年度 自己点検等管理委員会

委員長	森	野	数	博	校長
委員	黒	木	太	司	副校長
委員	篠	部		裕	教務主事
委員	西	坂		強	学生主事
委員	木	原	滋	哉	寮務主事
委員	岩	本	英	久	専攻科長
委員	宇	根	俊	範	人文社会系分野代表
委員	森		貞	雄	自然科学系分野代表
委員	尾	川		茂	機械工学分野代表
委員	田	中		誠	電気情報工学分野代表
委員	森	脇	武	夫	環境都市工学分野代表
委員	間	瀬	実	郎	建築学分野代表
委員	山	脇	正	雄	協働研究センター長
委員	吉	田	元	重	事務部長
委員	貞	野	修	一郎	総務課長
委員	村	岡	昌	良	学生課長

第2期中期目標期間（平成21年度～平成25年度）  
自己点検・評価報告書【第8報】

発行 平成28年3月  
作成 呉工業高等専門学校自己点検等管理委員会  
〒737-8506  
広島県呉市阿賀南2-2-11  
TEL：0823-73-8202  
E-mail：kikaku@kure-nct.ac.jp